

年氣溫較差は50°、大陸性の度合は67、最も大きい溫度の飛躍は三月から四月に十月から十一月にかけて見られる。

ダラスンの各季の降水量は次の如く配布する。

	冬	春	夏	秋	年
降水量	8.7	42.9	165.7	37.3	254
降水日數	10	14	36	16	76
強度	0.8	3.0	4.6	2.3	3.3

クニャジーウリが各月降水量は次の如く配布する。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
2	1	4	8	26	32	56	67	24	6.7	5	6	298

ダラスンの資料によると、この區には長期の旱魃が頻發する。1年間に平均13日間続く旱魃が19回もある。平均5—6日続く雨天期は年々2回位である。

日照量は大きい。積雪量は二月に12.5糎を超へない。雪は、三月から始つて、可成り急速に解消する。

49 ネルチンスキイ區

この區にはネルチンスク測候所の氣象報告がある。ネルチンスクは北緯51°59′、東經116°35′、標高490米である。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
-28.9	-28.6	-16.4	-0.4	10.2	16.9	20.8	15.2	9.0	-2.5	-17.3	-28.7	-4.1

ウズネセンスキイ(『氣候圖』)によつて引用された資料によると、年平均氣溫は-3.3°、一月平均氣溫は-31°、七月平均氣溫は21°である。

引用された數字によつて分る通り、年平均氣溫は可成り低く、又冬と春は氣溫が低い。が夏と秋は充分に氣溫が高い。年氣溫較差は49.7°、大陸性の度合は80、無凍寒期は六月十九日から九月九日まで、即ち86日である。植物生長期の溫度總量は2270°、溫暖期(零度以上)は四月十五日以降約180日続き、植物生長期は約150日である。

各月降水量(糎)(ウズネセンスキイの29年間の資料による)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
2	3	4	10	24	38	71	72	34	11	7	5	281

七月と八月には夏季降雨が多い。春と夏の初めは降水の少いことを普通とする。冬は雪が少く(二月の積雪深度は10糎を超へない)、十一月に四糎、そして四月には雪は殆んどなくなる。

50 スレテンスキイ區

この區には二つの測候所、即ちスレテンスクとスレテンスク試験農場測候所がある。該二測候所は相互に接近してゐる。スレテンスクの觀測は1900—1918年に屬するもので、その地理的位置は北緯52°15′、東經117°43′、標高700米である。隣接諸區は、北方にチュルスィシフスキイ區、東方にウスチ・カリイスキイ區、南方にジドキンスキイ區、西方にネルチンスキイ區である。然しこれら諸區の氣候觀測も極めて貧弱である。

スレテンスクの各月、各季の氣溫は次の様であつた。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
-32.3	-26.4	-15.1	-0.5	9.3	16.8	19.8	16.8	9.0	-2.3	-17.7	-28.2	-4.2

各季氣溫

冬	春	夏	秋
- 28.9	- 2.1	17.8	- 3.6

年氣溫較差は52°、大陸性の度合は95、無凍寒期は五月二十七日から九月十六日まで、植物生長期間は146日（チュチュフに據る）、植物生長期間の溫度總量は2187°、Tugpo Teprn 係数は1.2である。

引用した資料に見られる如く、年平均氣溫及冬季氣溫が低いにも拘らず、植物成育期の溫度は全く充分であるので、スレチェンスク試験農場の云ふ所によると、比較的成熟が早く、且つ春秋の凍寒に耐へる様な農作物を選ぶと云ふ方法で、この地方の農業は氣候に適應して來たのであつた。

それよりも農作物に水分を保證すると云ふ點で寧ろ條件が悪い。

各月、各季の降水量は次の如し。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
降水量	3.0	1.9	3.4	11.7	19.4	51.1	74.1	82.0	38.6	11.0	5.6	4.5	301.3
降水日數	3.9	2.6	3.5	5.0	6.9	11.3	12.8	11.5	9.3	5.9	7.8	5.2	85.0

冬	春	夏	秋
9.4	34.5	207.2	55.2

降水量ではスレチェンスクはイルクーツク、クラスノヤルスク、キイレンスクよりも少いが、トロイツコサウスク、セレンギンスクよりも多い。降水量は七月、八月に多く、四月、五月、六月に少い、即ち小麦の播種期及發芽期に降水量が少ないのである。

その上に積雪量（1—12糎）が少く、春に強風の（北風と北東風）あることを

附言しなければならぬ。この區で農業を始めるに當つては、農業技術家や農事試験施設によつて是等の全條件が考慮に容れられなくてはならぬ。

51 チティンスキイ區

この區には氣候に關する纏つた資料は北緯52°02'、東經113°30'、標高674米に位置するチタ測候所の資料がある。

観測期間は1900—1931年間に亙る24年間である。これらの報告の他に、チティンスキイ區の氣候に關しては、ずつと前に出所の異なる氣候報告が度々發表された。以下に引用するこの區の氣候因子は東部シベリヤ地球物理學協會の最近の計算に成つたものである。

各月、各季の平均氣溫

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
-27.1	-21.7	-11.3	0.3	8.5	16.1	19.2	15.8	8.5	-1.6	-14.0	-22.4	-2.0

年氣溫較差	大陸性の度合	植物成育期溫度總量
40.0°	67	2092°

無凍寒期は五月三十日から九月十一日まで。植物生長期の日數はチュチュフに據れば144日である。

引用資料はチタの氣溫の各日變遷状態は一般的には東部シベリヤ地方に、又部分的にはザバイカル地方に通有なものであることを示してゐる。

チタの各季平均氣溫、植物生長期の平均氣溫をより南方にある測候所と比較して見ると次の通りである。

平 均 気 温

	冬	春	夏	秋	植物成育期
チ タ	- 24.	- 0.8	17	- 2.1	13.5
ア ギ ン ス ク	- 24.9	- 1.0	17	- 2.0	13.7
ア ク シ ャ	- 20.8	0.7	18.	- 0.9	15.0

零度以上の平均気温の期間は、ウズネセンスキイによると179日で、5度以上の平均気温の期間は144日である。

冬季の諸月間にこゝは非常に寒くなる。是は快晴日の多いこと、地面から放散する温暖を大気の上層へ散布することを助長する静穏の日が多いことに因るものである。

一ヶ月内での気温の開きも可成著しい大さを見せてゐる。夏季の月で30度以上の最大気温の際にも夜間には著しく気温が寒冷になることがある。僅に七月に凍寒がない許りである。

冬季の各月には-40°以上の寒気を見ることが屢々ある。気温が多少とも烈しい變化するのは湿度や雲量の條件に、その原因を求む可きであつて、風位はむしろ第二次的な役割を演ずるにすぎない。チタに於ては夏の快晴日には北風、北西風も気温の明瞭な低下を惹起しない。冬季の北風位の風は気温の若干の上昇を伴ふことさへもあるのである。

永久凍土層が廣く分布し、若干の湖水や河川が底まで凍結するのは年平均気温が低く、雪が少いからである。

年降水量は次の通り。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
2.9	2.2	4.3	10.1	26.3	60.8	89.3	99.7	41.1	10.4	7.2	3.3	345

降水量は各年により非常に著しい相違がある。シスタコウチの資料によると年降水量の開は190耗から578耗である。

早魃期は雨期よりもより確實にやつて来る。最も降水の少い月は一月、二月、三月で、降水の多い月は八月と七月である。相對湿度の最大は冬季の諸月に見られる。雪は十月の始めに降る。最大積雪深度は平均5-10厘を出ない。

チタは日照が大きい。このことは次の年日照時の比較から分る。

イルクツク	2190時間
チ タ	2628時間
キスロウドスク	2007時間

一月の日照度ではチタはビヤティゴルスク、ソチ等の如き土地をさへも凌駕してゐる。

チタから西方にヤプロノウイ山脈がある。この山脈中海抜1019米の所にベレワリナヤ測候所が在る。この測候所の年平均気温と夏季平均気温はチタより低い(年平均気温は-2.4, 七月は17°, 五月-九月の平均気温は11.2°)、が冬季低気圧により気温の迷轉現象が廣く分布してゐる爲冬季平均気温は高い。

ヤプロノウイ山脈の一帶は、より酷烈な、農業的に望みのない異つた氣候區に屬してゐるのである(ヒロク測候所、モグゾン測候所、トルグトイ測候所等)。

52 イルクットスキイ區

この區はバイカル湖南岸の縁邊をなす連山の諸支脈に源を發するアンガラ河の小支流及アンガラ河の上流地域に位置してゐる。この區の領域には波狀地形の森林性ステップや山地性原生林地域がある。又或る地域には河川沿岸の砂地に生へた松林の見られる所も、原生林の斷片が散在してゐるところもある。

氣候條件については、數ヶ所の測候所で區々の年代に行はれた觀測資料に基いてその大體を知ることが出来る。

次に挙げるものは發表された観測資料を持つ測候所である。

測候所名	北緯	東經	標高
イルクーツク	52°16'	104°19'	467
ジュルドフカ	52°36'	104°33'	512
ズウイ	52°20'	104°02'	—
グラノフスコエ	52°28'	104°18'	490

之等測候所の資料の他に、イルクーツク農事試験場で行はれた若干の観測を利用することが出来る（イルクーツク市より數軒離れたウシコフカ河河孟にある）。

以下引用する數字は主としてウズネンスキイ教授、シウスタコウチ教授の最も新しい種々な著書に掲載された資料に據つたものである。

累年平均氣温

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
イルクーツク	-21.4	-18.3	-9.7	0.5	8.5	15.3	17.9	15.3	8.1	-0.1	-10.5	-18.7	-1.0
ジュルドフカ	-23.4	-20.2	-13.4	0.1	8.8	15.1	18.2	15.5	7.6	-0.6	-13.8	-21.0	-2.2

最低氣温はイルクーツクに於ては一月に-50.2°、六月には4.1°、七月に0.4°である。ジュルドフカの絶対最低氣温は冬はイルクーツク（一月に-53°）よりも低く、夏は（六月に-3.1°、七月に0.8°）イルクーツクよりも高い。イルクーツクの凍寒日数は平均223日である。

5ヶ月間（五月—九月）の平均氣温はイルクーツク、ジュルドフカに於て13°、イルクーツクの植物生長期間のプラス氣温は2000°、舊農事試験場に於ては1865°である。六月や七月に時々季節外れの凍寒があるにはあるが、イルクーツクの無凍寒平均期間は約100日続く（五月二十八日から九月七日まで）。零度、4度以上又は以下の平均氣温の時期はシウスタコウチから引用した資料によつて推斷出来る。

	零度の氣温始期			4度氣温の始期		
	春	秋	兩者間の日數	春	秋	兩者間の日數
イルクーツク	4月14日	10月13日	182	4月25日	9月29日	159
ジュルドフカ	4月16日	10月12日	179	4月30日	9月28日	151

降水量は年によつて異なる（イルクーツクに於ては280耗—300耗）。數年間観測の平均降水量としてシウスタコウチ教授は次の如き數字を擧げてゐる。

各月降水量

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
イルクーツク	10	8	7	16	32	57	78	69	43	17	16	16	369
ジュルドフカ	6	6	8	9	22	40	71	82	34	12	12	10	307
グラノフスコエ	6	6	3	7	22	41	66	45	31	10	7	7	249
ズウイ	9	8	6	11	30	55	84	86	42	14	16	14	373

植物生長期の係數（セリニフ氏法による計算）は1.5、絶対湿度は一年間に0.8から10.5耗まで變化する。相對湿度は40%乃至80%である。

イルクーツク測候所一年間の日照時間數は2131時間で、その間のひらきは十二月の60時から七月の262時間に及ぶ。年平均一晝夜日照時6.6時間である。

アンガラ河河谷の氣候、部分的にはイルクーツクの氣候に對してバイカル湖の影響は著しい。ジュルドフスコエと比べてイルクーツクの氣温の圓滑な變遷状態、降水量の多量はバイカル湖の影響の結果である。イルクーツク測候所からは多くの補足的資料が本書の總論中に引用されてゐる。

53 ブリヤート蒙古共和國アラルスキイ盟

アラルスキイ旗はアンガラ河の西方に當り、チレムホフスキイ區、ザラリンスキイ區、バラガンスキイ區の間に在る森林性ステップとステップの一部を占めてゐる。

る。上記諸區の氣候條件はアラルスキイ旗にも亦敷衍出来る譯である。この旗の領域内ではクトリック、スコットで氣象觀測が行はれてゐたが、クトリックの降水量に關する報告を除いては纏つて公表された資料は存在しないのである。

この旗の隣接測候所の報告により、次の數字に明瞭なる如く、氣温條件は殊に一年の中で溫暖期に全く良好に行つてゐる。

	平均氣温				植物生長期の總温量	5月—9月間の降水量
	年	1月	7月	5月—9月の5月間		
チュレムホウキ	- 1.8°	- 22°	18.5°	13°	2026	269
ザラリイ	- 2.5	- 27°	18°	13.5°	2187	284
ジマ	- 1.5	- 24°	16°	13.6°	2088	289

降水量に關してシスタコウチ教授（『シベリヤ氣候概論』）はクトリック測候所の次の資料を引用してゐる。即ち一月8耗、二月に11耗、三月に7耗、四月に10耗、五月に32耗、六月に55耗、七月に77耗、八月に68耗、九月に28耗、十月に25耗、十一月に18耗、十二月に16耗、一年間に355耗で、又五月から九月に互る5月間に260耗である。

『東部シベリヤ天氣彙報』の中に發表されてゐる1930年の數字によると、七月中の20日間の平均氣温がスコットに於ては18.2°、ジマーに於ては18.9°、ザラリイに於ては17.2°、と觀測された、即ちチクウトはジマー、ザラリイに近似してゐる。

54 ボハンスキイ盟（アイマーク）

ボハンスキイ旗にはボハン測候所、コノウェロウキ測候所が在り、且つ測候所の在る區によつて四方を取り圍まれてゐる。北にはウスチ・ウディンスキイ區、東にエヒリット・ブラガットスキイ區、南にウソリスキイ區、西にバラガンスキイ區がこの旗と接壤してゐる。ボレン測候所、コノウェロウキ測候所には降水量に關する資

料がある。數字はシスタコウチ著『シベリヤ氣候概論』から取つた。

氣温についてはこれらの測候所は次の如き特性を持つ。

	年平均氣温	植物生長期總温量
バヤンダイ	- 3.1	1817°
ウソリイ	- 1.4	2118°
リュティノ	-	1928°
バラガンスタ	-	2105°

各月、各季の降水量は次の通り。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
ボハン	5	4	2	4	22	42	53	67	27	15	11	10	203
コノウェロウキ	15	10	16	27	50	50	78	66	43	14	21	19	370

比較のために次に隣接測候所の資料を擧げる。

	冬	春	夏	秋
ボハン	19	28	162	53
ウソリイ	22	41	200	71
リュティノ	42	34	174	67
コノウェロウキ	44	93	-	-
バヤンダイ	13	16	207	51

冬季の降水量の少いのは、快晴、靜穩なる日を伴ふ高氣壓が卓越してゐることによるものであらう。

コノウェロウキの積雪深度は二月に43—47釐である。

ボハンの氣候はアンガラ河に接する隣接諸區よりも降水量が少く。降水量の點ではバヤンダイに近似してゐる。氣温はこゝより森林の多いエヒリット・ブラガト

スキイ區よりも高い。

55 アギンスキイ盟 (アイマーク)

この旗はオロウナンスキイ區、アクシンスキイ區、東部シベリヤ山地性ステップ地帯の諸區と並列して位置してゐる。氣候條件も是等の諸區と著しい相似點を持つてゐる。この旗の領域内に於ては氣象觀測は區々の年に不完全に行はれてゐたが、それを隣接諸區の測候所の報告と比較して見る時、この旗の氣候の概念を大體正確に掴み得る。

アギンスク測候所 (北緯 51°06', 東經 114°32', 標高 691 米) の氣温に關してチュフは次の如き數字を擧げてゐる。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年	1月-12月の平均氣温	植物成育期總温量
-24.1	-19.6	-12.4	0.2	9.0	16.3	19.0	15.7	8.3	-1.2	-13.2	-21.9	-2.1	13.8	2040

隣接諸區の測候所の氣温主要數字は次の通り。

	年	1月	7月	5-9月間平均氣温	植物成育期總温量
オロウナンナヤ	-2.1	-27	20	14.7	2240
アクシヤ	-0.3	-23	21	15.4	-
チタ	-2.9	-27	19	13.5	2092

この地方は日照の多いことを特色とする。このことは植物の成長に重要な氣温の高い夏の役割を大にする。アギンスクの雲量は年は約40%、冬は30%、春は34%、秋は34%、唯夏丈は52%まで増加する。

降水は主として七月-八月間に降る。六月、九月には二倍も減少する。殘餘の月 (特に二月、三月) は降水量は微々たるものである。次にアギンスクとザガルタイの降水量を掲げる。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
アギンスク	2.3	1.3	1.8	6.1	14.5	42.7	93.1	82.5	47.1	6.6	4.9	2.1	305
ザガルウイ	2.0	1.3	2.3	11.3	13.0	33.7	94.8	85.3	44.1	100	2.3	2.3	301

オロウナンナヤでは平均270耗以下で、アクシヤは350耗、チタは330耗である。引用されたアギンスク測候所の資料は、この旗に完全に通用するものとは考へられない。何故ならば觀測期が餘りに短いからである。

この旗の領域内で降水は不均等に分布してゐること、又長期の無降水期があることは周知の事實である。で、1924-26年の3年間の降水量の開きは次の様であつた。七月に降水量の最大、最小は10.7耗と74.4耗で、降水日數のそれは五月と九月であつた。

1925年には四月から五月二十三日まで全部で53日間降水がなかつた。1926年にはアドン・チャロンに於ては四月、五月に互つて雨は降らず、六月に小雨があつた。そして七月には再び雨が降らず、八月になつて漸く雨が降り始めた。ところでアギンスクでは七月中に50耗の降雨があつた。

雪は殆ど降らない (1-2糎)、その上冷却した地上に降つた雪は間もなく風に吹き散らされる。早魃の他に春には屢々凍寒があり、四月には時に雪嵐があつたり、薄氷が張つたりする。

この氣候は著しく大陸性を帯びてゐるが、農業に (多くの土地で)、特に牧畜に全く適してゐる。農業にとつての最大障礙は春季の早魃である。

56 バルグジンスキイ盟 (アイマーク)

この旗には種々異つた景觀が見られる。即ち針葉樹原生林に被はれた山脈があり、バイカル湖の沿岸があり、バルグジン河の廣闊なる河谷がある。山地性の原生林地域は開墾されてゐないから、バイカル湖沿岸と同様農業にとつて無用であ

る。450米乃至600米低地にある諸川の河谷のみが、バイカル湖の北東岸に接壤する廣漠たる山地原生林地帯の中にあつて、農業のオアシスをなしてゐる。

この旗の域領では、例へばバルグジン、ゴリヤチンスコエ、トルキンスキイ燈臺、サスノフカ、ポリシヨイ・ウシカンスキイ島等數ヶ所で氣象觀測が行はれた。最も興味深いのはバルグジン測候所の觀測で、それによつて中部農業地區の氣候を推定することが出来る。ゴリヤチンスクとトルカ測候所の資料はともかく人が住み且つ開拓された地域に關係を持ち、ソスノフカ測候所の觀測資料は(1924—25年間)バイカル沿岸山地性原生林(及びポリヌイ禁獵區)の氣候を特徴付け、そしてポリシヨイ・ウシカニイ島の觀測資料はバイカル湖の全く特異な氣候條件に關係を持つてゐる。

以下主としてバルグジンとソスノフカ測候所の資料を用ひる。

バルグジンの地理的位置は北緯53°1′、東經109°6′、標高483米で、サスノフカ測候所は北緯54°72′、東經109°30′、標高456米である。

觀測期間の各月平均氣温は次の通り。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
バルグジン	-26.7	-22.5	-11.9	-0.8	8.4	16.7	18.9	16.2	8.7	-0.7	-13.0	-22.0	-2.7
サスノフカ	-20.2	-23.3	-16.9	-5.6	1.3	5.8	7.4	12.2	7.3	-1.6	-5.6	-12.5	-4.0

この兩者の數字に著しい差異が見られるのはソスノフカはバイカル湖の沿岸にあり、且つその觀測期間が短い(僅に一ヶ年)爲である。年平均氣温ではバルグジンは(-2.7°)タングイ、トルン、イルクーツクよりも低い。

バルグジンの年氣温較差は45.1°、大陸性の度合は76.8、植物生長期間の總温量は1800°である。絶對最低氣温は十二月に-52.4°に達する。一年間の凍寒日数は221日四月に二十五日、五月と九月に各12日ある。零度平均氣温、4度平均氣温の始期は、次の通りである

春		秋	
0°	4°	0°	4°
4月16日	4月30日	10月12日	9月31日

零度以上の平均氣温を有する日数は180日、4度以上の日数は158日である。無凍寒期は五月下旬から九月中旬まで続く。

各月、各季降水量(耗)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
バルグジン	6	2	2	6	10	22	60	57	28	7	14	18	232
サスノフカ	7	4	6	12	10	44	83	75	88	27	21	20	400

	冬	春	夏	秋
バルグジン	26	18	139	49
サスノフカ	31	28	202	137

この地方には雪は少く、積雪深度はバルグジンに於て一月に15層を出でない。その後は積雪深度は減少して、三月に4層となり、四月には0.6層となる。

57 エラウンスキイ盟(アイマーク)

この旗の領域内では、區々の異つた時期に氣象觀測を行つた測候所が數ヶ所ある。それらの觀測資料は農業や氣象問題を扱つた種々な著書に部分的に發表された。それらの觀測地點は次に示す。

	北緯	東經	標高
ウスチ・イングル	53°29′	113°33′	—
ウクィル	52°32′	111°24′	965

ロマノフスコエ	53°5'	112°4'	—
ポリウツェウ	53°17'	112°4'	—
テレムバ	52°30'	113°16'	—
ウールシヤナ・コンディンスコエ	52°19'	112°24'	—

上記測候所の標高に關しては資料がないけれども、旗全體が平均絶對高度約600—900米の臺地を占め、且つ個々の高地はそれよりも尙著しく高いことが分つてゐる。上記各測候所に於ては觀測は規則正しく行はなかつた。時には夏の諸月丈か又は二三年間行はれたに過ぎぬ。それ故これらの資料を利用するに當つて、この資料が偶然的で餘り確實なものでないことは考慮に置かなければならぬ。氣候に就て大體の概念を得たり、他の諸區と比較したりするには、是等の資料でともかく充分である。氣温條件に關しては次の資料によつてその平均値を推定し得る。

(短年間のものであるから、累年平均ではない)。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年	觀測期間
ウスチ・イングル	-30.4	-24.5	-16.8	-3.4	6.7	16.4	16.5	13.5	6.2	-4.4	-20.8	-26.5	-5.8	1906-09年
ウクイル					6.1	13.8	17.4	13.9	6.2					1908-14年
ポリウツェウ					5.8	13.7	16.8	12.9	4.6					1908-13年
テレムバ					6.3	11.5	16.2	13.5	5.5	-1.6	-14.7	-31.1	-5.3	1916年
ウ・コンディンスコエ					5.7	12.7	16.1	12.8	3.3					1901-13年

引用された數字から分る通り、この地方は農業にとつては酷烈で、夏期の短いことと温量の低いことに特別な注意を要する。五月から九月まで5ヶ月間の平均氣温が10°—11.5°を超へず、植物生長期の總温量は1650—1700° (ウクイル測候所とテレムバ測候所) を出でない。

ウスチ・イングルの降水量

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
3	1	1	8	17	36	126	103	70	10	9	6	391

春と冬には早魃であるのに夏季の後半には過剰な降雨がある。

積雪は大體少い。然し所によつて積雪は氣候圏や地方的氣候條件の如何に左右されて差異がある。即ちウスチ・イングルに於ては雪は九月から四月まで残存し二月の積雪は30糎であるが、ウクイルに於ては積雪は平均16糎以下で、ポリウツェウに於ては平均7糎である。この地方は一見農耕よりも牧畜に適してゐるのを見へるが、穀作(春蒔)菜園業と雖も全く可能なのである。この地方には『永久凍土層』が屢々見られ、小さい貯水池は屢々底まで凍り、家畜の給水問題を困難にするのである。

58 トンキンスキイ盟 (アイマーク)

次の測候所の纏つた資料がある。

	北緯	東經	標高	觀測期間
モンドイ	51°0'	101°0'	1310米	9ヶ年
トンカ	51°3'	106°6'	724米	21ヶ年
アルシャン	51°9'	102°6'	893米	5ヶ年
シムキイ	51°40'	102°0'	713米	10ヶ年

1930年に高山測候所イリチル(北緯52°03', 東經151°05')が開設された。

各月、各季の觀測期間中の平均氣温は次の限界内を上下した。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
モンドイ	-18.5	-17.3	-10.2	-2.0	6.0	13.0	14.8	12.5	5.9	-2.7	-11.1	-18.2	-2.3
トンカ	-26.1	-20.1	-9.1	1.3	8.0	15.2	17.5	15.1	7.9	-1.1	-14.2	-23.0	-2.3
アルシャン	-15.7	-13.2	-9.9	1.2	8.0	13.8	16.1	13.6	7.7	-1.6	-8.8	-18.1	-0.5
イリチル	-22.1	-25.1	-13.1	-8.7	0.9	7.7	9.9	8.3	1.1	-3.5	-14.4	-16.6	-7.2

	冬	春	夏	秋	年氣温較差	大陸性の度	植物成育期總温量
モン・ド・イ	-15.0	-2.6	13.4	-2.9	33.8	57	1400
ト・ン・カ	-23.1	-0.3	15.9	-2.4	43.6	82.6	1924
アル・シャ・ン	-14.6	-0.4	14.5	-0.9	31.8	54.6	1921

無凍寒期は平均六月初旬から九月初旬まで続き、植物生長期は五月初旬から九月下旬まで続く。

一年間の降水量及其の累年平均數字の資料から推定出来る(シ・スタコウチ『シベリヤ氣候概論』に據る)。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
	(1930—31年地球物理學協會の資料による)												
ト・ン・カ	3	3	3	9	24	48	90	84	33	8	5	5	315
アル・シャ・ン	5	3	2	14	33	58	120	131	47	12	8	14	446
モン・ド・イ	1	1	2	9	23	61	89	66	28	9	3	2	295
イリチル	0.7	0.7	8.3	13	48.7	46	95	100	53	14	7.5	1.7	349

ト・ン・キン・スキイ旗は東部サヤン連山中にあり、イルク・ト、オカ、キト・イ河等の上流地方を占めてゐる。そして山脈も或る部は森林があり、或る部分はその山峰が森林限界線外に出てゐる。

農業方面で注目し得るのは各河川の河谷で、そこには時に例へばイルク・ト河沿岸のト・ン・キン・スカヤ盆地やトルスカヤ盆地の如く、湖状をなした廣地がある。こんな土地は農業のオアシスであり、農業にも牧畜にも全く好条件を具備してゐる。然しこんな土地では地形の急な變化、斜面の方向等の如何によつて、氣候状態に大きい差異のあることを考慮に容れなければならぬ。

5) カバカンスキイ盟 (アイマーク)

カバカンスキイ旗には次の測候所に観測報告がある。

	北緯	東經	標高	観測年限
ウ・ル・フニヤ・ミシハ	52°1'	106°7'	467	8年間
カバンスク	51°7'	105°9'	465	3年間
ム・イ・リ・ワ・ヤ	52°3'	106°3'	468	24年間
オ・イ・ム・ル	51°6'	105°2'	456	3年間
ベレヨムナヤ	51°5'	104°7'		3年間
タン・ホ・イ	52°3'	106°3'	456	21年間

ム・イ・ソ・ワ・ヤ測候所、ハラウズ測候所、タン・ホ・イ測候所はバイカル湖の沿岸にある。ウ・ミシハ測候所はハマル・ダバンに、カバンスク測候所はセレンガ河の河谷に在る。それ故に是等測候所の資料は全く異つた農業氣候區に關係を持つ譯である。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
ム・イ・ソ・ワ・ヤ	-17.1	-16.2	-10.5	-1.7	4.9	10.5	13.6	14.2	8.6	2.0	-5.0	-0.6	-0.6
ハラウズ	-18.8	-17.2	-11.2	-2.0	4.6	11.1	14.4	14.6	8.9	1.1	-7.8	-1.4	-1.4
タン・ホ・イ	-18.7	-17.6	-10.8	1.7	5.8	11.0	14.6	14.5	8.6	2.8	-5.2	-0.8	-0.3
カバンスク	-20.4	-17.5	-10.6	-0.7	7.9	14.8	17.2	15.4	8.4	0.5	-9.4	-16.7	-0.9
ウ・ミシハ	-18.9	-16.8	-10.3	-3.4	3.7	12.2	15.0	12.5	5.6	2.9	-10.4	-15.0	-2.4
ベレヨムナヤ	-18.4	-17.3	-10.8	-0.7	4.8	12.0	13.2	13.4	7.9	0.7	-5.1	-10.5	-0.9
オ・イ・ム・ル	-20.1	-20.5	-11.4	-1.2	7.6	15.6	17.8	16.4	10.2	1.5	-6.7	-13.5	-0.2

	冬	春	夏	秋	植物成育期總温量
ム・イ・ソ・ワ・ヤ	-14.3	-2.2	12.7	-1.8	1709
ハラウズ	-16.9	-2.8	13.3	-0.7	1500
タン・ホ・イ	-16.1	-2.4	14.1	-2.0	-
カバンスク	-18.2	-0.7	15.6	-0.1	1994
ウ・ミシハ	-17.0	-3.3	13.2	-2.5	-
ベレヨムナヤ	-15.4	-2.2	12.9	-1.2	-
オ・イ・ム・ル	-18.0	-0.8	16.0	-1.9	-

是等の數字から分る様にカバンスク、オイムル、部分的にはヴェ・ミシハ測候所が冬は気温が低く、オイムル、カバンスクは夏は気温が高い。

年気温較差、大陸性の度合は次の通り。

	年 気 温 較 差	大陸性の度合 (ツェンケルによる)
ム イ ソ ワ ヤ	30.7	57
ハ ラ ウ ズ	33.2	57
タ ソ ホ イ	32.3	57
カ バ ン ス ク	37.1	67
ヴェ・ミシハ	33.4	57
ベレヨムナヤ	31.8	57
オイムウル	37.9	67

カバンスクの絶対最低気温は一月の-41.4°から七月の0.4の間を上下する。ハラウズに於ては一月絶対最低気温は-39.7°、七月の絶対最低気温は1.8°である。二三の測候所の凍寒日数は次に示す如くである。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
カバンスク	28	13	0.6	0	0.1	5.5	24.5
ムイソワヤ	29	14	0.3	0	0.1	1.7	19.1

各 月、各 季 降 水 量

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	年
ムイソワヤ	15	8	12	16	4	69	98	98	59	23	23	30	491
ハラウズ	13	2	2	5	17	37	57	57	25	6	4	6	216
カバンスク	10	6	8	17	33	45	83	83	48	19	22	17	390
ヴェ・ミシハ	9	9	13	21	40	66	118	87	55	48	33	30	529
ベレヨムナヤ	15	18	14	35	63	73	129	135	69	33	40	45	663
オイムウル	10	3	4	10	28	47	38	60	28	16	10	11	265

年降水量を比較して見れば、ベレヨムナヤ、ヴェ・ミシハ、部分的にムイワヤ測候所、即山地々方やバイカル湖沿岸に降水量が多く、残餘の測候所に於ては著しく少いことが分る。

各季別には降水量は次の如き配布をなす。

	冬	春	夏	秋	年降水日数
ムイソワヤ	53	79	265	105	111
ハラウズ	11	24	145	35	-
カバンスク	33	58	211	89	109
ヴェ・ミシハ	43	74	271	136	-
ベレヨムナヤ	78	112	357	142	-
オイムル	24	42	145	54	88

春の各月に降水量はどの測候所でも、最大で春殊に冬には降水量は少い。

この旗の領域内で、気候の如何、農業の適不適によつて、バイカル沿岸、ハマル・ダバン山地原生林地帯、セレンガ河々谷の三ツ地區が區劃される。この三區の中で最後のもの、即ちセレンガ河谷のみが農業にとつて無條件に適當するものと認められる。とは云へ、セレンガ河のより上流に位置するウルフネ・ウディンスクにバイカル湖の影響は既に認められないのに、カバンスクに於てはバイカル湖の影響は尙認められるのである。

この旗の三地方の相違は一年間の降水や気温の配布や量についても瞭然と看取出来る。積雪も亦各地方により夫々異つてゐる。山地原生林地帯は最も雪が深くハマル・ダバン山に於ては130種に達し、ヴェ・ミシハ測候所の資料に明かである如く、九月から六月まで積雪は残存する。ベレヨムナヤも亦雪が深い(67種)。バイカル湖沿岸は例へばムイソワヤに於て38種で、又例へば、ハラウズに於てはその地形条件や風位等の關係で積雪は10—12種を出ないのである。セレンガ河谷や、カバンスクに於ては積雪は少々多く30種であるが、バイカル湖から遠ざかると例へ

ばウエルフネ・ウディンスクに於ては積雪は17糎に減少し、セレギンスクでは10糎にさへなつてゐる。

セレギンスキイ盟 (アイマーク)

北緯51°1'、東經106°6'、標高572米のセレギンスク測候所やインノケンティエフスカヤ (北緯50°55'、東經103°14') 測候所に古い資料がある。

ヤレギンスク測候所の各月、各季の累年平均気温は次の通りである。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
-26.9	-23.9	-12.0	1.8	9.9	17.6	20.0	17.0	9.6	0.2	-13.6	-22.6	-1.9

各季平均気温

冬	春	夏	秋
-24.1	-0.1	18.2	-1.4

年気温較表は45°9'、大陸性の度合は80。

ヤレギンスクの植物生長期の總温量に就てはウエルフネウディンスク (2130°) やトロイツコサフスク (2250°) のものから推定出来る。

気温の一年間の變遷はザバイカル地方に固有な特性を帯びてゐる。

各月、各季の累年平均降水量

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
2	1	2	2	9	23	61	46	18	1	4	2	162

冬	春	夏	秋
5	14	120	23

斯くの如く降水量は極めて少い。そしてその各月の降水量が甚だ不均等である即ち夏がその74%を占めるにも拘らず、春は9%、秋は11%を占めるに過ぎない。積雪は二月に10糎を出す、十一月に0.7糎、三月に5糎、四月には雪は殆んど消へる。春は風が頻發し、夏は早魃期の後に驟雨が良くある。又この他方には永久凍土層が見られる。この地方は人工灌溉を必要とする。

61 エフリート・ブラガトスキイ盟 (アイマーク)

この區には、種々な時代に氣象觀測の行はれた測候所が數ヶ所ある。然し最も纏つた資料のあるのはバヤンダイ試験農場である。

是等の測候所の地理的位置は次の通りである。

	北緯	東經	標高	
バヤンダイ	53°1'	105°6'		(バイカル湖上の島)
オリホン	53°1'	105°9'	450米	
ホゴト	53°3'	105°8'	568米	

觀測期間中の平均気温は次ぎ變遷を見せた。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
バヤンダイ	-22.7	-19.1	-11.2	-1.2	7.6	13.3	17.6	14.3	6.9	1.6	-13.6	-22.5	-2.6
オリホン	-18.0	-16.4	-10.1	-1.8	4.5	10.1	13.7	14.1	8.7	1.3	-7.0	-13.9	-1.2

従つて、平均気温は七月が最高で、一月が最低と云ふ正しい性質を帯びてゐる。然し最低気温が十二月に移ることも時にある。五月と九月の気温は最も安定してゐる。觀測期間中の五月の偏差は僅に3°で、九月は3.7°であつた。是も気温の安定しないのは冬の各月で偏差は7°乃至14.9°である。月平均気温の最も甚しい變動は十月と十一月の間 (12°) に見られる。又反對に三月から四月にかけても気温

の著しい變動が見られる。

各季の平均気温は次の通り。

	冬	春	夏	秋	年
バヤンダイ	- 21.6	- 1.5	15.0	- 2.6	- 2.6
ホリホン	- 16.1	- 2.4	12.6	1.1	- 1.2

七月の最高気温は17.3°、一月、十二月の最低気温は-22.8°、年気温較差は40.1°大陸性の度はバヤンダイ72、オリホンが58である。

夜間の気温低下は夏中でも凍寒(0°以下)の恐れがある。無凍寒期は平均六月三日から九月三日まで続く。然しながら凍寒が六月中旬の終頃又は八月の末に見られることが屢々ある。即ち1919年には春の最後の凍寒は六月十一日(-2.1°)に記録されてゐるし、1924年には六月二十日(-0.5°)にあつた。秋季最初の凍寒は1917年には八月二十七日(1.2°)に、又1915年には八月二十九日(-0.9°)に観測された。

平均して無凍寒期は97-99日である。一年の三分の二以上は零度以下の気温を示した年の約半分は雪融がないのである。

植物生長期の総温量はバヤンダイで1817°、オリホンで1500°である。

バヤンダイ試験農場の観測によると一年間の平均地温は次の様である。

地下平均最低地温(攝氏温度)(米)

	地面	0.2米	0.4米	0.8米	1.6米	3.2米
起耕地	- 12.1	1.2	1.3	1.2	1.3	1.6
荒蕪地	- 11.8	2.4	1.3	1.4	1.5	1.6

起耕地の地面は寒氣の到来と共に迅速に甚しく凍結し、春にも亦迅速に融解し夏は強く熱せられる。

零度以下の地温は春には地上二米の高さにある氣象観測小舎よりも著しく遅くまで認められ、秋にはそれよりも早く見られる。

概して気温條件は比較的作り難い野菜の栽培を制限するが、然しともかく最も廣く栽培されてゐる野菜の栽培は可能である。

各月降水量

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
バヤンダイ	5.4	2.7	2.6	7.3	13.3	61.7	78.0	64.4	32.0	8.0	6.4	5.6	287
”	4.7	3.2	2.6	7.3	9.2	63.2	77.0	58.6	29.1	7.4	6.4	5.2	273
オリホン	4	1	2	3	8	21	47	51	12	5.0	5	6	164
ホゴト	5	3	4	8	20	36	54	52	23	8	8	9	230

註 異つた観測期間の資料を引用した。上段は地球物理學究研究所の數字で、下段はバヤンダイ試験農場の報告である(12年間)

故に收穫を高めるには田圃の閑期に水分を貯へる様にしなければならぬ。

各季降水量

	冬	春	夏	秋	年
バヤンダイ	13.1	19.1	198.8	42.9	273
オリホン	11	13	119	22.0	164
ホゴト	17	32	142	39	230

バヤンダイの植物生長期の降水總量は252耗。年降水日数は285日で、二月の一三日を最少に七月の78日(180日の誤植か)が最大である。平均積雪深度は十二月に10釐に達し、一月に19釐、二月に18釐、三月に32釐である。雪は十一月に根雪となり、四月末に融けて失くなる。

バヤンダイの各月相對湿度は次の數字で表される。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
82	77	67	36	51	64	71	74	71	71	80	85	71

冬の各月に最大温度が見られ、その中の一つは年最大温度をなす。最低温度は春季に見られる。春の温度の低下は播種準備や播種の遂行を妨げる。

相対湿度の絶対最低は春に11%まで低下する。

曇量は月により45%—33%である。春の到来と共に快晴日が特になくなり、六月—七月の兩期に曇量は最大となる。

最大日照度は月単位又一晝夜単位に云つても三月—四月に見られ、最小は十二月である。だから植物の温床栽培には好条件を具備してゐる。

各月の気圧は七月の690托乃至一月の700托を上下し、年平均698托である。六月八月、九月の夏季の月が最も安定してゐる。

風は北風と北東風が卓越風である。風速の最も大きいのは四月、五月、即春の播種期であり、最も静穏な月は七月である。

引用した概括的な資料によれば、エヒリット・ブ。ラガトスキイ區では秋は乾燥して、早く零度以下の気温が到来し寒涼で、冬は長くて気温に富み、気温が低く、春は乾燥して風があり、遅くまで零下気温が残存し寒く、夏は気温が高く、短期で気温に富み、夜間零下に下ることがある。

試験農場の観測によれば地方種の穀物は、良く起耕して、手入を十分にすればヘクター當り37ツェントネルの收穫に達すると云ふ。

この旗の領域内では氣候的条件は同一ではなく、引用資料はバヤンダイ地方、即ちこの旗の農業區に關係を有するものである。他の地方即ちブリバイカル山脈の山地性原生林地帯に於ては氣候的条件は農業には前者よりも不適で、オリホン島の夏の低気温と降水量の少いことが農作の可能性を著しく制限する。オリホン

地方の一部も全く之と同様である。

62 ウェルフネウディンスキイ盟 (アイマーク)

北緯51°9′、東經107°35′、標高542米のウェルフネウディンスク測候所がある。観測は1900—1932年の32年間に亘つてゐる。測候所はセレギンスコ・ウディンスカヤ森林性ステップの中にある。又ザイグラウ、クリュチュウスカヤ、タルバガタイ、オノホイでも氣象観測が行はれたが、これら測候所の資料は公表されてゐない。ウェルフネウディンスクの観測期間中の各月、各季の平均気温は次表の通り。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
-25.8	-21.6	-11.5	0.7	8.8	1.6	19.5	18.6	8.5	-1.0	-13.2	-26.6	-2.1

冬	春	夏	秋
-24.6	-0.6	17.2	1.9

七月—八月の最高気温は37°、一月の最低気温は-51.4°、年気温較差點は45.4、大陸性の度合は80、植物長生期の總温量は2130°である。

無凍寒期は四月半ばから十月始めまでである。凍寒日數(零下以下の気温を有する)は四月に27日、五月に14日、六月に1日、八月に0.3日、九月に10日である。

春秋の0度気温、5度気温の到来期及その間の日數は次に示す通りである。

春		秋		日數	
0°	5°	0°	5°	0—0	5—5°
4月13日	5月1日	10月14日	9月28日	184日	150日

気温条件ではこの區はザバイカル地方の諸地點、即ちチタ、セレギンスクその

他と著しい差はない。

年平均絶対温度、相對温度は次の如き數字で表される。即ち絶対温度は3.9で(一月の0.4から七月の10.4間を上下する)、相對温度は七月の62%から十二月の74%間を上下する。

各月、各季平均降水量及降水日數

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
降水量(耗)	5.7	2.6	2.3	8.4	10.3	35.6	52.8	61.0	39.3	7.5	9.7	9.1	244
降水日數	7	4	3	4	6	10	11	12	6	9	9	9	90

	冬	春	夏	秋
降水量	17	18	159	56

積雪量は少い。屢々旱魃が見られる。

63 キャフティンスキイ盟(アイマーク)

この旗にはトコイツロサフスク測候所が一つあり、その地理位置は北緯50°2′、東經103°72′、標高758米である。この測候所の氣象報告の文獻としては、地球物理學協會の資料、シウスタコウチ著『シベリヤ氣候概論』中に掲げられた32年間の觀測、又はウエイコフ、キリロフその他革命前の氣象學者の刊行物がある。

多年間觀測の年平均各月平均気温は次の數字に表される(シウスタコウチによる32年間の觀測資料)。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
-22.9	-18.7	-9.4	2.0	10.0	17.2	19.6	16.7	8.9	0.1	-10.7	-19.1	0.5

年气温較差は42.5°、大陸性の度合は77°絶対最低气温は七月の2.6°と一月の45.6°の間を動搖する。年凍寒日數は220日、且つ四月の凍寒日數は26日、五月は10日、九月は7日である。

春秋の0度气温、4度气温の到來期

春		秋		日 數	
0°	4°	0°	4°	0°—0°	4—4°
4月10日	4月2日	10月15日	10月3日	188日	165日

植物生長期の總温度は2254°。

無凍寒期は平均五月の下旬から九月の中間まで續く、が時にこの期間内と雖も凍寒(零度以下の气温)は度々ある。

年平均气温はセレギンスク、チタ、ウルフネウディンスク、ネルチンスキイ・ザウドに於けるものより高い。然し略々同緯線上に在る歐露の諸地點と比較すればトロイツクサフスクの年气温は低く、例へばクルスク(北緯55°42′)に於ては年平均气温は5.2°、ウラリスク(北緯51°12′)に於ては4.8°である。

ドロイツクサフスクの年气温較差は42.5°で、是亦同緯線上にある歐露の諸地點よりは著しく大きく。例へばウラリスクに於ては年气温較差は32.5°である。春季の气温も亦バイカル湖以西の諸地點より低いのである。

この地方の低气温と積雪量の僅少はこの地方に『永久凍土層』の分布してゐること、若干の湖水や河川が底まで凍結することの原因をなしてゐる。種々な文獻による降水量は次の通りである。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
1900—1930年間の資料	3.2	2.2	2.7	6.4	31.6	51.4	77.8	95.1	43.3	6.9	5.5	5.3	330
シウスタコウチによる	3	2	2	5	23	40	82	79	37	8	5	4	289

東部シベリヤ地方

景観的條件	名	氣 温					日 數		降水	
		年平均氣温	一月	七月	五月 — 九月間	植の總 物生量 長期	植日 物生 長期數	無凍 塞日 數		年降 水量
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
I ツンドラ及森 林性ツンドラ 地帯	1 極地々方		-10	-30	12-13	5-6	80	—	—	220
II 臺地の森林地 帯	2 北部原生林地 帯		-6	-25	16	10	1300- 1700	132	85	350
	3 ブリアンガル スキイ		-3	-25	18	12-13	1900- 2000	140	90	360
	4 ウェルフネレ ンスキイ		-4	-28	18	12-13	1700- 1900	135	85	340
III 低地の森林地 帯	5 エニセイス キイ		-2	-22	19	13,5	2000	140	110	450
IV 山地性原生林 地帯	6 サヤンスコ・ ハマルタバン スキイ		-2.5	-20	13	5-11	1400	—	70	300- 500

氣候區の主要示標。(其一)

量	積雪 深度(極)	チ エン ケル 氏に よる 大陸 性係 數	民 住地 の 標高 (平均)	一 定 氣候 區に 屬 する 行政 區劃	註		
五 — 九 月 間 の	12	13	14	15	16	17	18
150	130	1.8	54	10-50	タイムイルスキイ民族區、 イガルスキイ區		
265	120	1.6	57	40-700	エウエキンスキイ土着民 區、北部エニセイスキイ 區、南部エニセイスキイ 區、カタンギンスキイ土 着民區、キレンスキイ區 の北部、タソフスキイ土 着民區、トルハンスキイ 區	9.10.14.15の數字はトル ハンスキイ(モナスト スコエ)に屬するもので ある。	
250	50	1.5	70	300- 500	ボグ、チンスキイ、ケ ジュースキイ、シトキン スキイ、タイシュトスキ イ、ニジネウディンス キイ、プラトスキイ、 トルハンスキイ、クイ トンスキイ、ウステ ウディンスキイ、ニ ジネイリムスキイ、 タセエフスキイ、 エヌ・インガシスキイ 區の北東部、シミン スキイ區の北部		
225	40	1.3	80	300- 500	キレンスキイ、ウスチ ・クツトスキイ、カ ザチンスキイ、ジガ ロフスキイ、カチグ スキイ、エヒリト・ フ、ラゴトスキイ旗 の東部	キレンスキイ、ジイ ガロフスキイ、カチ グスキイ、カラムス キイ、ニジネ・ト ングスカ河上流の 亞區に更に分ける ことが出来る。	
250	—	1.3	67	50-100	エニセイスキイ、ピ ロフスキイ、カザチ ンスキイ、ウデレ イスキイ		
270- 350	130	2.0	—	450- 800	次の諸區の南部山地 々方、アギンスキイ、 ニジネインガシスキ イ、タインエトスキ イ、ニジネウディン スキイ、トルハンス キイ、トッラリヤ、 ソイオトスキイ土 着民區、トウキン スキイ、ディンスキ イ、カバンスキイ、 ビルグジンスキイ 旗の山地々方	8. 10の數字はモン ドゥイ測候所のもの、 13の數字はハマル タバン山脈のウェ ルフネミンハのもの	

東部シベリヤ地方

景観的條件	名	氣 温					日 數			降水 年降水量
		年平均氣温	一月	七月	五月 — 九月間	植物 の 總 生 長 期	植 物 生 長 期 數	無 凍 害 日 數	年 降 水 量	
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	7	ウイティムスキイ	-5	-28	18	12	1700	110	70	300
	8	中央バイカリススキイ	-3	-25	17	11-12	1800	130	75	320
	9	バイカリススキイ	-3.6 -0.3	-18	14	10-11	1650	-	100	200- 500
V 森林性ステップ 丘状地帯	10	クラスノヤルスマ・カンスキイ	0.0	-19	19	13-14	2000- 2100	150	120	320
	11	イルクットスキイ	-1.5	-22	18-19	13	2000	140	90	350
VI ザバイカル地方の山地性ステップ	12	セレギンスキイ	-1.5	-25	20	14.5	2200	140	100	162- 396

氣候區の主要示標 (其二)

量	積雪深度(極)	チよる大 エンケル 氏係數	居住地の 標高(平均)	一定氣候區に する行政區劃	註	
五 — 九月間 の	13	14	15	16	17	
12	13	14	15	16	17	
220	50	1.3	—	450- 850	ボダイビンスキイ、ウイティ モ・オレクミンスキイ民族 區、バウントフスキイ、北 バイカリススキイ區	
275	15	1.4	77	800	クラスノチコイススキイ、ペ トロフスコ・ザバイカリス スキイ、ウラン・ヒロクスキ イ、ホリンスキイ、エラウ インスキイ旗、バルグジン スキイ旗の南東山地性原生 林地帯	
150- 350	—	0.9- 2.0	—	460	スリデヤンスキイ、エヒリ ト・ブ。クラガトスキイ、バ ルグジンスキイ、カバン スキイ旗の沿湖地方、又北 バイカリススキイ區の沿湖地 方	バイカル湖沿岸地方の氣 候的條件は複雑で尙是を 次の亞區に分けることが 出来る。南部、中部、北 部
225	10-20	1.0	60	200- 300	クラスノヤルスキイ、カン スキイ、スウホフジムス スキイ、ベムウルティンスキ イ、バラフティンスキイ、ノ ウセロフスキイ、ロヂェス トウエンスキイ、イラン スキイ、ウヤルスキイ、ルビ ンスキイ、イルベイススキイ アギンスキイ、バルティン スキイ、マンスキイ區の北部、 タセエフスキイ、アバン スキイ區の南部	數字は左記の諸行政區の 森林性ステップ地帯のみ を特徴付けるものであつ て、その原生林地帯間の 氣候的條件はもつと酷烈 である。即ち温度は低く 濕氣が多い。
270	20-30	1.3	80	400- 500	イルクットスキイ、ウソリス スキイ、チュレムホフスキイ、 ザラリンスキイ、バラガン スキイ、ジミンスキイ、ア ラリススキイ旗、ボハンス キイ、エセリト・ブ。ラガト スキイ旗の南部	10番の區に於けると同じ
148- 200	15	0.8	86	500- 600	セレギンスキイ、キャフティ ンスキイ、ウルフネウディ ンスキイ、ム。ホルシビル スキイ、カバレススキイ旗の 南部	カバンスキイ旗は夏季に 温度の低い亞區に入れる ことが出来る。
					チティンスキイ、カルイムス	

東部シベリヤ地方

景観的條件	名	氣			溫			日 數		降水
		年平均氣溫	一月	七月	五月至九月間	積物の總生長量	植物生長長期數	無凍寒日數	年降水量	
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	13	東部ザバイカリスキイ	-2-4	30	20	14.5	2000-2300	-	100	240-400
VII 山地性河谷	14-a	トウソックスキイ	-2.3	-27	17.5	13	1900	130	90	315
	14	バルグジンスキイ	-2.7	-26	19	14	2100	-	-	230
	14-b	ビチュルスキイ	-2	-26	19	14	-	150	-	330

氣候區の主要示標 (其三)

量	積雪深度(種)	チエンケル氏による大陸性係數	民住地の(平均)標高	一定氣候區に屬する行政區	註			
五-九月間の	12	13	14	15	16	17	18	19
225-350	12	1-1.4	80-90	450-1000	キイ、スレテュンスキイ、シルキンスキイ、ウレトフスキイ(インゴタ河谷)クリンスキイ、ネルチンスコ・ザヴォドスキイ、アギンスキイ旗、アクシンスキイ、オロウヤンニンスキイ、ボルジンスキイ、ブイルキンスキイ、アレクサンドロザウドスキイ、ジデインスキイ、ガジムウロ・ザウドスキイ、ウスチ・カリイスキイ、チュルヌシユフスキイ、オリンクスキイ	地形の多様性は次の亞區に更に分けることを可能にする。即ち南部、西部、北東部がそれである(本文第七章参照)		
240	10	1.2	82	750	トウソックスキイ旗のイルクツト河河谷	廣闊なる山地性河谷(例へばザルフネ・アンガラ河、ムヤ河、沿岸、ウイテム、オカ河上流の他地點)に氣象觀測所を設ければ多分更に小氣候區にこの氣候區を分けることが出来る		
200	15	0.9	77	500	バルグジンスキイ旗のバルグジン河々谷			
280	12	-	-	635	マシティンスキイ區のビチュラ村(ヒロク河々谷)			

東 部 シ ベ リ ヤ 地

この表はイルクーツク地球物理學協會の報告に基き作成し、そして種々な文献
ンスキイ、ジスタコウチや地球物理學協會の文献に従つた。又()に示し
献目録中の文献を示すもので、その文献にはそれら測量所の資料が掲載されてゐ

1	測 候 所 名	地 理 的 位	
		北 緯	東 經
2	3	4	
1	アカトイ	51°06'(-0.3')	117°46'
2	アクシヤ	50 15'(-17')	113 25'(-17')
3	アレクサンドロフスキイ・ザウド	50 51'	117 54'
4	アルヂエル	53 35'	98 10'
5	バイカル	51 52'	104 50'
6	バイグリスカヤ	52 15'	116 45'
7	バイキト	61 36'	96 33'
8	バラガンスク	53 43'	103 20'
9	バラフダ	55 23'	91 36'
10	バンシチコウキ	58 0'	108 39'
11	ベエズノソウキ	54 07'(-53°59')	103 41'(104°15')
12	オベリスコエ	57 48'	92 12'
13	ビチラ	50 35'(-36')	107 36'
14	ブラゴウシチンスキイ金鑛	58 10'	114 19'
15	ボクチャスィ	58 30'	97 20'
16	ポリシヤ・ムウルタ	56 11'	92 58'
17	ポリシイエ・コトイ	51 54'	105 04'
18	ボルジヤ	50 24'	116 29'
19	ヤブラトスク	56 04'	101 50'
20	ブル	58 52'	107 02'

方 測 候 所 一 覽 表

から取つた資料によつて是を補足した。測量所の地理的位置は主としてウズネセ
た數字はその他の文献から引用した數字である。註の項の數字は卷末に附した文
る。この表に引用した報告は至極完全のものではない。

(其一)

置 標 高	観 測 年 度	測 候 所 所 在 區 名	註
1100	1894-99, 1900-1904, 1894-99, 1900-1909	アレクサンドロ・ザウドスキイ	1, 4, 51
733	1910-1913-1917, 1931-33rr	アクシンスキイ	1, 51
	1931-33r	アレクサンドロ・ザウドスキイ	
	1931-32r	タフラルスキイ	
	1924-33r	スリュディヤンスキイ	
	1913-15r	チェルヌシフスキイ (?)	1
	1932-33r	バイキトスキイ	
	1919-24, 26, 28-33r	バラガンスキイ	1
	1913-17, 31-32r	バラフティンスキイ	24
300	1874-75, 77-91	キレンスキイ	1
408	1903-1909, 1910-12	ジゴロフスキイ	1, 2
	1912-14r	ピロフスキイ	51
662	1892-93, 1913-21	マレティンスキイ	1, 2, 4
490	1883-99, 1900-17	ボダイビンスキイ	
	1900-1933r	ボグチャンスキイ	
	1929-33r	ポリシヤ・ムルティンスキイ	
460		スリュディヤンスキイ	1, 4, 51
683	1901-19, 1925-33r	ボルジンスキイ	1, 4, 2, 3
338	1892-1898, 1901-33r	ブラトスキイ	1, 2, 4
431	1910-19	キレンスキイ	

東部シベリヤ地

1	測候所名	地理的位	
		北緯	東經
2	3	4	
21	ブイストラヤ	51°45'	103°28'
22	ワナワラ	60°9'	102°46'
23	ウールフネ・インバトスコエ	63°10'	88°57'
24	ウールホレンスタ	54°06'	105°34'
25	ウイティム	59°26'	112°34'
26	ウエロゴウ	61°02'	89°42'
27	ウエロジエイカ	56°29'	89°55'
28	ウイドリノ	51°26'	104°51'
29	ゴロウインスカヤ	53°26'	102°40'
30	ゴロウストノエ	52°01'	105°27'
31	ゴリチハ	74°42'(71°42')	83°28'
32	ゴンド	57°55'	97°13'
33	ゴルビツ	53°06'	119°12'
34	グラノフスコエ	52°28'	104°18'
35	グルズノフスコエ	55°08'	105°03'
36	グタルスコエ	54°15'	96°25'
37	ダラスン(温泉)	51°09'(51°11')	113°37'(113°44')
38	ダウリヤ	49°56'	116°52'
39	ヂェブタキイ	57°45'	93°25'
40	ディクソン	73°30'	80°23'
41	ドギンスコエ	51°30'	118°14'
42	ドルギイ・モスト	56°55'	96°30'
43	ドノ	50°53'	118°35'
44	ドロニンスコエ	51°09'	112°11'
45	ドウディンカ	69°23'	86°04'
46	エニセイスク	58°27'	92°06'(-11')

方測候所一覽表(其二)

置 標高	観測年度	測候所所在區名	註
	1920-22, 25-26	スリヂェヤンスキイ	
	1932-33	チュンスキイ	
30	1911-33r	トウルハンズキイ	2, 4, 25
518	1863-65, 1883-85	カチグスキイ	1, 2, 4
	1928-33r	ボダイビンスキイ區と キレンスキイ區の境界	59
60	1915-21r	トルフノンスキイと 北・エニセイスキイ	2, 24, 25
	1929-32r	エニヤイスキイ	
	1927-30	スリヂェヤンスキイ區と カバンスキイ區の境界	
	1927-33	チュレムホフスキイ	
456	1897-99, 1900-24	イルクト・スキイ	1, 2, 4
7,3	1895-96	ウスチ・エニセイスキイ	1, 2, 24, 25
	1913-22, 1929-1933	ボグチュンスキイ	2, 24
412	1900-1910()1911-21	ウスチ・カリイスキイ	1, 51
490	1891-1904()	イルクトスキイ	1, 2
	1918-22, 1932-33	ジガロフスキイ	
	1917-18	トファラルスキイ	
	1931-33	カルムスキイ	
	1932	ボルジンスキイ	
	1911-16	シトキンスキイ	2
8,6	1917-1918	ウスチ・エニセイスキイ	4, 24, 25
	1903-05	カジムウロ・ザウドスキイ	1
	1910-11, 13-18, 29-33	アバンスキイ	1, 2
720	1903-18	ビルキンスキイ	1, 4
	1902, 13-15, 31-33	ウレトフスキイ	1, 2, 4, 24, 25
17	1906-26	タイムイルスキイ民族區 ドウディンスキイ	
80	1852-54, 60, 1871-90, 1910-33	エニセイスキイ	1, 2, 4, 24, 25

東部シベリヤ地

1	測候所名	地理的位	
		北緯	東經
47	エルボガチン	61 15'	107 29'
48	ジェルドフカ	52 39'	104 33'
49	サバイカル畜羊農事試験場	52 02'	116 31'
50	ザコベエニノ	55 41'	105 42'
51	ザラリイ	53 33'	102 31'
52	ザレチノエ	52 23'	103 20'
53	ゼエレン	52 01'	119 29'
54	ジロウ	53 04'	117 28'
55	ジマ	53 53'	102 03'
56	ズナメンカ	54 34'(-42')	104 45'(-50)
57	ズイ	52 28'	104 02'
58	ジュリジャ	52 32'	116 12'
59	イランスコエ	56 12'	96 03'
60	イリムスク	56 46'	103 51'
61	インノケンティエフスキイ哨所	52°20'	104 13'
62	イルクーツク	52 16'	104 19'
63	カザチンスコエ	57 42'(57°35')	93 17'(93°12')
64	ガザチンスコエ試験農場	57 45'	93 11'
65	カイラストゥイ	49 50'	118 23'
66	カマラ	56 01'	95 18'
67	カーメンカ	58 37'	95 40'
68	カンスク	56 12'	95 39'(-41')
69	カラム	55 17'	107 33'
70	カルィムスカヤ	51 38'	114 21'
71	カチャ	56 04'	91 56'
72	カチュグ	53 58'	105 53'
73	ケジエムスコエ	58 58'	100 58'(101°04')

方測候所一覽表 (其三)

置 標高	観測年度	測候所所在區名	註
	1913-14	カタングスキイ	
512	1902-21	イルクーツスキイ	1, 2, 4
	1931-32-33	ネルチンスキイ	
	1909-16, 25-26, 28-29, 31-32	ジガロフスキイ	1, 2
	1900-01	ザラリンスキイ	2
	1913-14, 1918	ウソリスキイ	
	1915-16()1917	ガジム・ザウ・ドスキイ	
	1910-15, 19.7, 1931-33	チュルヌイシエフスキイ	59
458	1902-20, 22-33	ジミンスキイ	1, 2, 4
470	1897-1901-10, 15-16()	ジガロフスキイ	1, 2
	1910-33	イルクーツスキイ	1, 2
	1911-21	オリシスキイ	1
	1911-17, 1926-33	イランスキイ	2
280	1902-33	ニジネ・イリムスキイ	1, 2, 4
	1927-33	イルクーツスキイ	
467	1820-44, 51-67, 95-99, 1900-33	”	1, 2, 4, 6
95	1893-1910-1911	カザチーエニセイスキイ	1, 2, 4
	1911-26, 28-33	カザチンスキイ	
	1911-18	ボルジンスキイ	1, 51
	1931-33	ルィピンスキイ	1, 2
100	190-04()1905-19	ボグ・チャンスキイ	1, 2, 4
206	101886-1903, 1910-20, 23-33	カネキイ	1, 2, 4
	1909-19	カザチンスコ・レンスキイ	1, 51
	1903-10, 13-21, 27, 29-33	カルィムスキイ	
	1924-33	クラスノヤルスキイ	
	1916-17, 26, 28-33, 1885-89, 1894-95, 1900-01	カチュグスキイ	
150	1908-09, 1910, 23-33	ケジエムスキイ	1, 2, 4

東部シベリヤ地

1	測候所名	地理的位	
		北緯	東經
2	3	4	
74	キレエ	54 15'(-09)	100 27'
75	キレノスタ	57 47'	108 07'
76	クリクウエンナヤ	55 59'	94 15'
77	クリチ	55 04'	97 18'
78	クリチ	56 18'	107 36'
79	クニゼウルリガ	51 52'	114 47'
80	コンドラチエフカ	57 45'	97 19'
81	コンコルチエフスキイ金鑑	60 29'(-28')	92 24'(-31')
82	コノワロウ	54 01'	103 06'
83	コンスタンティノフカ	54 34'	104 45'
84	クラスノヤルスタ	56 01'	92 49'(-51')
85	クラスノヤルスコエ試験農場	56 02'	92 45'
86	クラスノイ・ヤル (クラスノイ・チコイ)	50 22'	108 41'
87	クイトン	54 22'	101 30'
88	クリチ・ノース	51 50'	103 25'
89	クルトク	51 44'	103 45'
90	クルトクスカヤ	57 37'	104 36'
91	クレイカ	66 36'	88 24'
92	クケル	53°10'	115°52'
93	クイラ	49 32'	111 50'
94	レノバイカリエ (ウ・リカノスタ)	55 54'	107 48'
95	レオニドフスキイ・ザウド	55 19'	91 51'
96	リストウニチノエ	51 51'	104 51'
97	マコフスコエ	58 11'	90 58'
98	マクシモウ	57 29'	104 36'
99	エム・カス	59 17'	88 44'
100	マンガット	49 41'	112 42'

方測候所一覽表 (其四)

標高	観測年度	測候所所在區名	註
507	1906-10	トルンスキイ	1, 2, 4
270	1892-99, 1900-1909, 1910-33	キレノスキイ	1, 2, 4
	1924-33	ウールスキイ	
331	1928-29	ニジネインガシスキイと タイシトスキイ	
	1910()1928-33	カザチンスタレンスキイ	
	1890-93	カルイムスキイ	1
	1910-11	シトキンスキイ	1
700	1894-96	北エニセイスキイ	1, 24, 4
	1903-19, 1921-33()	バラガンスキイ	1, 2
450	1911-29	ジガロフスキイ	1
154	1838-48, 68-73, 84, 92 95-96, 98-99, 1900-33	クラスノヤルスキイ	1, 2, 4, 24
	1914-33	”	42, 42
	1913-1931-32	クラスノチコイスキイ	1, 51
	1925	クイトンスキイ	
	1921-22	スリュヂェンスキイ	
460	1869-72, 97-99, 1900-19 09, 1011-17()	”	1, 2, 4
361	1912-14	ウスタ・クウトスキイと ニジネイリムスキイ	1
	1930-33	イガルスキイ	2, 5
599	1908-14	オリンスキイ	1, 4
	1931-33	クリンスキイ	
	1930-33	カザチンスタレンスキイ	
213	1885-1909, 1910-20()	ハラフティンスキイ	1, 2, 24
455	1897-99, 1900-21	スリュヂェンスキイ	1, 2, 4
	1912-21()	エニセイスキイ	
359	1914-19	ウスタ・クウトスキイ	
65	1898-1902	スィムスコ・カススキイ	2
	1904	クリンスキイ	

東部シベリヤ地

測候所名	地理的位		
	北緯	東經	
1	2	3	4
101	マリトイ	51 46'	104 14'
102	モグゾソ	51 43'	111 53'
103	モナストイルスコエ (トルハンスタ)	65 47'	87 57'
104	ムリノ	51 23'(-28')	104 23'(-25)
105	ムヤ	56 30'	115 38'
106	ナヂェヂインスキイ金鐘	58 12'	114 35'
107	ナジモウ	59 30'	91 01'(-20)
108	ネウソ	58 2'	102 37'
109	ネルチンスタ	51 58'	116 35'
110	ネルチンスキイ・ザウド	51 19'	119 37'
111	ニジネウディンスタ(京)	54 55'	99 03'
112	ニジネ・ウリカンスコエ	55 54'	107 48'
113	ニコラエフスキイ・ザウド	55 56'(55°55')	101 28'
114	ノウ・アレクサンドロ フスキイ・ザウド	52 49'	104 02'
115	ノウ・マリインスキイ金鐘	60 36'	91 52'
116	オレントイ	51 08'	112 50'
117	オロウヤンナヤ	50 56'	115 36'
118	オロンキイ	52 53'	103 42'
119	オモロイ	56 28'	106 16'
120	オルリガ	56 03'	105 50'
121	オンノウ	61 91'	90 06'
122	ベレワリナヤ	51 44'	112 37'
123	ベスチナヤ・ブダ	52 15'	105°44'(-43')
124	ベトロフスキイ・ザウド	51 17'	106 51'
125	ベトロパウロフスコエ	58 20'	109 03'
126	ボロウナ	53 3'	103 17'
127	ブレエオブラジェンスコエ	60 20'(-00')	107 56'

方測候所一覽表(其五)

置 標高	観測年度	測候所所在區名	註
480	1907-20, 1925-33	スリュヂャンスキイ	1, 2
899	1900-08, 10-17, 27-33	ウラン・ヒロフスキイ	1, 4
	1911-33	トルハンスキイ	1, 2, 4, 24, 25
469	1889-90, 1910-18()	スリュヂャンスキイ	1, 2
	1932-33	カラルスキイとバウ ントフスキイの境界	
	1902-17()1918-25	ボダイビンスキイ	1, 2
	1843-44, 92-94, 99-1900 -902, 1915-20	エニセイスキイ	1, 2, 24, 25
	1930-33	ニジネイリムスキイ	
490	1767-72, 1848-59, 1886- 1899, 1900-17, 1931-33	ネルチンスキイ	1, 4, 51
629	1839-1900, 1900-19' 31- 33	ネルチンスコ・ザウドスキイ	1, 4, 51
407	1890-1909, 1910-32	ニジネウディンスキイ	1, 2, 4
	1928-33	キレンスキイ	
369	1887-99, 1900-901	ブラトスキイ	1, 2, 4
140	1887-1905()	イルクツトスキイ	1, 2
250	1898-99-1900	北エニセイスキイ	1, 2, 4
	1931-33	カルイムスキイ	
588	1902-18, 1925-33	オロウヤンニンスキイ	1, 4, 51
430	1901-04()	ウソリスキイ	1
325	1894-99, 1900-09, 1910- 25, 33	ウスチ・クツトスキイ	1, 2, 4
	1916-18, 32-33	"	
	1911-13-15	北エニセイスキイ	59
1023	1906-16	チティンスキイ	1, 4, 51
460	1899-932	イルクツトスキイ(?)	1, 2, 3
801	1830-39, 86-97, 99-1909 1910-20, 25-33	ペトロ・ザバイカリスキイ	1, 4, 39, 51
250	1902-03()1925-26	キレンスキイ	1
	1927-33	ウソリスキイ	
322	1882-83, 1932-33	キレンスキイ	1, 2

東部シベリヤ地

1	測候所名	地理的位	
		北緯	東經
1	2	3	4
128	ルィビンスコエ	55 46'	94 47'
129	ルィブノエ	58 08'	94 31'
130	ルムティノ	54 23'	103 06'
131	スリュヂャンカ	51 37'	103 51'
132	ツウトスキ山	60 30'	92 36'
133	ソロネツコエ	54 35'(-40')	98 48'(99°08')
134	ソホンド	51 46' 46' ?	112 24'
135	スレテンスク	52 15'	117 42'
136	スレテンスク試験農場	51 55'	117 35'
137	ストルプ	55 56'	92 45'
138	タンガ	53 36'	101°49'
139	タイムバ	60 18'	99 01'
140	タイシエト	55 54'(55°59')	97 30'(97 53')
141	タングイ	55 22'(-24')	100 58'(-55)
142	タセエフスコエ	57 03'	94 53'
143	ティホノ・ザドンスキ金鑛	58 30'	113 19'
144	トルストイ・ノス	70 05'	83 39
145	トロイツコエ	57 13'	94 53'
146	トルンスコエ試験農場	54 33'	100 22'
147	トラ	64 18'	100 20'
148	トルグトイ	51 44'	112 37'
149	トルハンスク	65 54'	87 34'
150	ウク	55 04'	93 50'
151	ウソリエ	52 45'	103 42'
152	ウスチ・クット	56 45'	105 40'(-30')
153	ウスチ・トングスコエ	53°08'(-09')	92°48'(-53')
154	ウスチ・ウロフ	52°20'	120°44'

方測候所一覽表 (其六)

置 標高	観測年度	測候所所在區名	註
	1912-20, 27-28, 30-33	ルィビンスキ	1, 2
	1896, 1910-21, 29-33	ウヂェレイスキ	1, 2
	1912-33	ウスチ・ウヂンスキ	1, 2
	1910-20, 1924-33	スリュヂャンニンスキ	59
	1932-33	北エニセイスキ	
(430)	1906-1911	ニジネウヂンスキ	1, 2, 4
	1911-1919	ウラン・ヒロクスキ	1
447	1893-909, 1910-18, 22, 25-33	スレテンスキ	1, 4, 51
	1931-33	”	
	1925-27, 1930-33	クラスノヤルスキ	24
	1915	ザラリンスキ	
	1911, 19 3-16, 32-33	バイキトスキ	2, 4
(319)	1902, 05-19, 24-33	タイシエトスキ	1, 2, 4
330	1906-18	トルンスキ	1, 2, 4
160	1888-1891, 1928-30	タセエフスキ	1
	1900-01, 03, 04, 07, 09, 10, 19 14-18	ホダイビンスキ	1
12	1866-67, 96-99(1895-1900)	ウスチ・エンセイスキ	1, 2, 2, 5
163	1900-33	タセエフスキ	1, 2, 4
482	1899, 1900-33	トルンスキ	1, 2, 4, 41
	1923-33	エウエンキイスキ	
	1927-33	ウレエトフスキ	
49	1843-44, 59, 60, 77-96, 98(1899-933)1913-16()1927-33	トルハンスキ	1, 2, 4, 24, 25
		ニジネウヂンスキ	
403	1888-93, 1900-909, 1910-22	ウツリスキ	1, 2, 4
320	1895-96, 98, 1901, 908, 1909-11, 16-17	ウスチ・クットスキ	1, 2, 4
	1894-96, 98, 902	エニセイスキ	1, 2, 5
	1911-1919()	ジガイム・ザウドスキ	

東部シベリヤ地

1	測候所名	地理的位	
		北緯	東經
1	2	3	4
155	ウトリク	51°32'	106°08'
156	ハルバトフスコエ	53°45'	106°02'
157	ハリク	54°15'	101°40'
158	ハタンガ	71°32'(-59)	102°09'(-20')
159	ヒロク	51°25'	110°33'
160	フドエランスコエ	54°39'	99°25'
161	チャドブスコエ	58°40'	98°51'
162	チェレムホウ	53°09'	103°09'
163	チンダント	50°35'	115°26'
164	チタ	52°02'	113°30'
165	チャイダ	57°30'	91°80'
166	チونسカヤ・ストレルガ	61°31'	100°57'
167	シヤマンスコエ	56°58'	101°48'(-47')
168	ジャラダール	54°28'	100°55'
169	シルカ	54°52'	116°0'
170	シトキノ	56°23'	98°22'
171	エリドラド	60°00'	93°05'
172	ユリエオ	59°58'(61')	108°06'(107°30')
173	ヤククリム	56°46'	105°58'
174	ヤランスコエ	58°21'(57°5')	91°53'(93°1')
175	ヤマロフカ	50°37'	110°15'
176	ヤムクン	51°32'	118°20'
177	ヤルツェウ	60°12'	90°15'
178	ボダイボ	—	—

方測候所一覽表 (其七)

置 標高	観測年度	測候所所在區名	註
	1910-17	スリ・ヂャンスキイ	1, 2
557	1900-03()1904-20	カチウグスキイ	1, 2, 4
	1931-33	クルトスキイ	
70(100)	1906, 1908-09, 29-30	ハタンスキイ	2, 4, 23
811	1901-03-05, 1907-21	ペトロ・ザバイカリスキイ	1, 4, 51
	24-33	ニジネウチンスキイ	
	1927-33	ボグチヤンスキイ	2
	1913-33	チェレムホフスキイ	1, 261
330	1873-75, 1885-1894, 1913	オロウ・ヤンニンスキイ	1, 51
528	1885-1891	チティンスキイ	1, 4, 51
674	1827-30, 1887-90, 1910	ピロフスキイ	2, 24
180	-19, 1930-33	バイキドスキイ	
	1913-1916, 1918	ブラトスキイ	1, 2, 4
	1932-33	トルンスキイ	1
245	1394-1909, 1910-33	シルキンスキイ	1, 51
420	1904-09()	シトキンスキイ	
	1910-18()1919-21, 25-33	北エニセイスキイ	1, 2, 4, 24
	1931-33	キレンスキイ	1
700	1892-94	ウスチ・クツスキイ	
329	1914-20	エニセイスキイ	2, 24
343	1914-16	クラスノチコイスキイ	1, 51
106	1911-1915	ガジイム・サヴドスキイ	
984	1902-07	トウルハンスキイ	
	1931-33	ボダイビンスキイ	26, 59
	1932-33		
	1933		

ブリヤート蒙古自治

1	測候所名	地理的位	
		北緯	東經
1	2	3	4
1	アギンスコエ	51°06'	114°32'
2	アルシヤン	51°52'	102°32'
3	バウト	55°15'	113°09'
4	バルグジン	53°37'	109°38'(-37')
5	バヤンダエフスコエ試験農場	53°03'	105°33'
6	ポリシヨイ・アマラト	53°58'	113°36'
7	ポリシヨイ・ウシカニイ島	53°50'	108°39'
8	ボハン	53°09'	103°47'
9	ウルフネウディンスタ	51°49'	107°35'
10	ウルフニヤ・ミシハ	51°30'	105°58'
11	ウエルシノ・コンディンスタ	52°19'	112°24'
12	ゴリヤチンスコエ	52°59'	108°18'
13	ダガルスkey燈臺	55°42'	109°53'
14	ドシカチャンスキイ燈臺	55°50'	109°51'
15	ザイグラエウ	51°50'	108°16'
16	ズウガルウイ	51°28'	115°02'
17	イリチル	52°03'	101°05'
18	イロ	51° 2'	105°58'
19	インノケンティエフスコエ	50°55'	106°14'
20	カバンスコエ	52°03'	106°39'
21	クリュチュフスカヤ	50°44'	102°17'
22	コテリニコフスキイ燈臺	55°02'	109°05'
23	クオトリク	53°24'	102°42'
24	クイレン	51°41'	102° 9'
25	ムウホル・シビリ	51° 2'	107°35'
26	モンドウイ	51°4 1'	109°59'
27	ムソワヤ	51°43'	105°52'
28	ヌククト	53°44'	102°49'
29	オドン・チュロン	50°40'	115°57'

共和国測候所一覽表 (其一)

置 標	観測年度	測候所所在區名	註
691	1901—1910	アギンスキイ・アイマータ	
894	1911—14, 19, 1921—33	トウキンスキイ旗	2
	1915—1917	バウトフスキイ	
507	1885—1909, 1910—33	バルグジンスキイ旗	1, 2, 4
755	1911—33	エ・ブラガトスキイ旗	2, 44
	1909—12	バウトフスキイ	1
460	1900—1921, 32—33	バルグジンスキイ旗	1, 2, 4
	1886—905, 1914()	ボハンスキイ旗	1, 2
542	1835—38, 47—51, 66, 86—93, 95—97, 99, 1900—1909, 1910—32	ウルフネウディンスキイ	1, 2, 4
1280	1896—99, 1900—903—904	カバンスキイ	1, 2, 4
	1909—13	エラウインスキイ旗	1
463	1895—99, 1900	バルグジンスキイ	1
	1903—14	セエウーバイカリスキイ	
456	1899, 1900—03, 1911—20, 23—25	”	1, 2, 4
	1911—14	ウルフネウディンスキイ旗	
715	1908—12	アギンスキイ旗	
	1930—33	トウキンスキイ旗	
	1931—33	セレギンスキイ旗	
	1912—22	”	
467	1899—1909, 1910—33	カバンスキイ旗	1, 2, 4
	1929—33	ウルフネウディンスキイ旗	
	1909—21, 23—33	セエフーバイカリスキイ	1, 2
525	1900—1906	アラルスキイ旗	1, 2
	1930—33()	トウキンスキイ旗	
	1931—33	ムウホル・シビルスキイ旗	
1310	1900—1907, 1915—19, 1929—33	トウキンスキイ旗	1, 2, 4
466	1896—99, 1900—33	カバンスキイ旗	1, 2, 4
	1925—33	アラルスキイ旗	
	1932—33()	アギンスキイ旗	

ブリヤート蒙古自治

1	測候所名	地理的位	
		北緯	東經
1	2	3	4
30	オイムウル	52°19'(-20')	106°48'(-49')
31	オキンスキイ・スタン	52°42'	99°41'
32	オリホン	53°03'	106°54'
33	オノホイ	51°55'	108°3'
34	オルリク	52°35'	99°44'
35	ベレヨムナヤ	51°35'(-33')	105°10'
36	ボドロバトキ	50°55'	107°08'
37	ボコイニキ	54°1'	108°17'
38	ボリウツェウオ	53°17'	112°46'
39	ロマノフスコエ	53°15'	112°43'
40	セレギンスク	51°06'	106°38'
41	ソスノフカ	54°12'	109°30'
42	タンホイ	51°36'	105°20'
43	タルバガタイスカヤ・ファブリカ	51°28'	107°22'
44	テレムバ	52°30'	113°16'
45	トレイ	53°39'	104°54'
46	トロイツコサフスク(キューフタ)	50°21'	106°27'
47	トンカ(カザチエ)	51°43'	102°32'
48	トンカ	51°45'	102°33'
49	トルキンスキイ燈台	52°56'	108°12'
50	ウタイル	52°32'	111°24'
51	ウリャトイ	51°32'	105°55'
52	ウスチ・オルダ	52°07'	104°46'
53	ウスチ・ハスウルダ	52°20'	108°43'
54	ウスチ・イングル	53°29'	113°38'
55	ハラウズ	52°17'	106°16'
56	ホゴト	53°17'	105°49'
57	ホリンスク	52°10'	109°46'
58	シムキ	51°40'	102°00'

共和國測候所一覽表 (其二)

置 標高	観測年度	測候所所在區名	註
467	1901-04	カバンスキイ旗	1, 2
	1913-16	トンスキイ旗	
459	1900-25, 33	エヒリト・ブルガトスキイ旗	1, 2, 4
	1931-33	ウルフネウディンスキイ旗	
	1930-33	トンスキイ旗	
480	1901-905	カバンスキイ	2
	1932-33	ムウホル・シビルスキイ旗	
	1932-33	エヒリト・フラゴトスキイ旗	
	1916-17	エラウンスキイ旗	
	1913-19	”	
570	1854-69, 1888-95	セレギンスキイ旗	1, 2, 4
	1914-1926	バルグジンスキイ旗	
	1924-33	カヘンスキイ旗	
	1892-1896	ウルフネウディンスキイ旗	1
	1914-19	エラウンスキイ旗	
	1930-33()	セレギンスキイ旗	
758	1876-1880, 1885-1900	キヤフティンスキイ旗	1, 2, 4
	1910-19, 22-30	”	
	1888-95, 1914-33	トンキンスキイ旗	1, 2, 4
724	1901-12	”	
455	1895-909, 1910-33	バルグジンスキイ旗	1, 4, 2
965	1908-19	エラウンスキイ旗	1
1280	1927-33()	カバンスキイ旗	
	1927-32()	エヒリト・フラゴトスキイ旗	
540	1928-33	ホリンスキイ旗	
	1907-09	エラウンスキイ旗	1
456	1901-33	カバンスキイ旗	1, 2, 4
568	1887-1901()	エヒリト・フラゴトスキイ旗	1, 2
	1930-33()	ホリンスキイ旗	
713	1886-1894, 1901-02	トンキンスキイ旗	1

降 水

區 名	測 候 所 名	観 測 年 數
セエウルヌイエ	トルハンスク	28 1900—1931
”	イムバトスク	20 1920—1931
エニセイスキイ	エニセイスク	32 1900—1931
カザチンスク・エニセイスキイ	カザチンスコエ試験農場	28 1900—1930
クラスノヤルスキイ	クラスノヤルスコエ 試験農場	13 1914—1929
バラフティンスキイ	バラフタ	3 1914—1917
”	レオニドフスキイザヴド	20 1900—1919
カンスキイ	カンスク	27 1900—1930
イランスキイ	イランスカヤ	6 1911—1917
タセエフスキイ	トロイツコエ	29 1902—1930
アバンスキイ	ドルギイ・モスト	7 1910—1917
ウヂレイスキイ	ルイブノエ	10 1909—1930
”	ヂェブタキイ	6 1911—1917
ケジムスキイ	ケジマ	7 1900—1931
ニイジュ・イリムスキイ	イリムスク	30 1902—1931
ブラトスキイ	シヤマンスコエ	1900—1931
”	ブラトスク	1905—1931
タイシエトスキイ	タイシエト	15 1902—1930
エヌ・ウディンスキイ	ニイジネ・ウディンスク	26 1902—1930
トルンスキイ	トルンスコエ試験農場	31 1900—1930
トルンスキイ	タングイ	10 1906—1918
ジミンスキイ	ジマ	27 1902—1930
ザラリンスキイ	ザラリ	2 1900—1901
チェレムホフスキイ	チェレムホウ	1914—1930
ウワリスキイ	ウソリエ	20 1900—1922
イルクーツスキイ	イルクーツク	1900—1930
”	イルクーツク試験農場	2 1928—1930
キレンスキイ	キレンスク	29 1900—1931

日 數 (其一)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
14.6	13.4	14.5	12.1	12.4	12.9	12.5	15.0	15.2	18.0	16.1	14.0	170
18.8	14.2	15.3	13.2	15.4	14.6	15.6	17.2	17.3	21.5	20.6	19.0	202
18.6	13.6	12.9	10.8	13.9	13.9	14.1	16.4	16.9	18.8	20.2	18.5	188
15.9	11.0	12.3	10.5	12.9	12.1	12.6	14.9	14.5	15.7	17.4	16.8	166
8.0	7.2	7.1	8.2	11.1	13.1	13.0	16.6	14.1	14.5	12.5	9.5	134
11.5	10.5	10.0	9.0	11.2	10.5	15.0	15.7	14.0	13.3	17.0	16.0	153
14.7	11.4	12.2	11.9	14.0	14.6	14.8	17.3	15.2	18.2	17.8	18.0	180
10.2	8.0	8.2	8.0	11.1	12.1	12.1	14.1	13.2	12.0	13.2	15.1	135
12.4	12.4	9.3	11.7	10.0	9.1	12.1	15.6	12.3	14.0	16.7	13.2	150
13.4	10.0	2.6	9.8	12.1	11.8	12.3	13.5	15.7	14.3	15.7	13.8	145
10.9	9.3	7.7	7.7	9.7	7.4	9.1	12.4	9.7	10.3	14.0	11.8	120
16.2	13.9	12.1	11.2	11.7	10.7	12.4	15.0	14.2	14.7	19.7	17.4	169
15.5	13.5	10.5	10.7	11.0	12.3	11.7	15.6	14.5	16.7	18.6	17.4	168
18.0	12.7	13.1	10.6	11.6	11.1	13.3	13.7	12.2	16.5	20.8	20.2	172
14.0	9.5	9.1	3.4	10.7	11.3	11.2	12.1	12.1	14.1	15.0	14.5	136
12.3	8.1	7.0	8.1	8.7	9.6	11.2	10.5	10.2	10.9	12.9	12.1	121
10.6	8.7	7.3	8.3	10.4	12.1	12.8	12.5	13.3	11.8	14.0	12.1	133
12.3	9.0	11.7	11.0	12.3	11.9	14.3	16.4	14.4	12.1	15.2	13.9	154
6.4	5.4	9.9	6.9	8.4	10.1	13.1	12.4	8.3	8.3	7.8	7.4	104
9.1	8.0	6.0	6.1	10.6	11.4	13.3	13.2	11.8	10.0	11.4	11.3	122
10.3	6.2	7.2	7.1	7.1	9.5	11.2	13.7	11.1	9.1	12.5	12.2	117
11.2	8.7	7.1	8.1	11.7	11.9	13.6	13.9	12.6	11.8	13.5	14.3	138
17.5	14.0	18.5	9.0	12.0	7.5	13.5	12.0	10.5	11.0	10.0	9.0	144
8.6	7.4	5.8	7.1	8.2	10.1	11.0	13.1	10.1	8.3	10.0	12.7	112
6.3	6.0	4.9	5.0	7.8	8.0	10.0	10.7	7.9	6.7	9.1	8.2	89
11.0	9.4	6.8	7.6	10.6	12.8	14.4	14.6	14.0	9.7	12.4	13.5	136
14.5	7.0	4.0	7.5	18.5	12.7	14.0	12.7	12.7	7.0	13.3	13.3	132
15.6	13.6	11.4	2.6	11.8	13.6	11.2	13.9	13.3	14.7	17.1	15.6	154

降 水

區 名	測 候 所 名	観 測 年 數
エヒリト・ブラガトスキイ	バヤンダイ試験農場	20 1911-1930
ウラン・ウデンスキイ	ウエルフネ・ウデインスク	32 1900-1931
チティンスキイ	チ タ	24 1900-1931
オリンスキイ	ジュリジャ	10 1911-1921
”	クイケル	10 1908-1918
ネルチンスキイ	ネルチンスク	4 1912-1916
ネルチンスク・ザウ・ドスキイ	ネルチンスキイ・ザウ・ド	16 1900-1931
オロウ・ヤンニンスキイ	オロウ・ヤンナヤ	16 1902-1918
ボルヂンスキイ	ボルジヤ	19 1901-1926
”	カイラスト・イ	7 1911-1918
スレチンスキイ	スレチンスク	19 1900-1918
キフティンスキイ	トロイツコサフスク	30 1900-1930

日 數 (其二)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
7.3	5.9	3.4	5.4	8.2	12.4	12.9	13.3	9.8	7.2	9.0	8.2	103
7.1	4.5	3.1	3.8	5.9	8.9	11.1	11.8	8.5	5.9	8.9	9.4	88
2.5	2.3	2.6	4.0	7.0	10.3	14.0	16.0	9.6	4.0	3.9	4.0	80
4.1	2.9	4.0	5.1	3.9	9.7	11.3	11.9	5.9	2.5	4.9	3.2	69
3.6	2.4	3.9	5.2	5.2	11.2	13.6	14.7	9.2	3.8	3.7	4.5	80
6.8	3.2	3.8	4.6	5.6	9.8	7.0	12.0	6.5	4.2	4.2	3.8	71
4.2	1.9	3.5	4.6	6.7	9.4	11.4	11.6	7.7	5.3	4.6	4.6	75
1.8	1.2	1.9	3.1	4.8	7.2	11.0	12.1	6.7	3.0	2.2	2.4	57
2.5	1.6	1.4	2.3	4.6	7.6	11.8	11.6	6.3	2.1	2.8	2.7	57
2.3	1.8	3.0	3.2	2.9	11.1	7.5	8.7	7.0	2.2	1.7	2.3	53
3.9	2.6	3.5	5.0	6.9	11.3	12.8	13.5	9.3	5.9	4.8	5.2	84
3.7	3.1	3.6	4.4	6.7	8.8	13.0	12.1	7.7	4.7	5.0	6.0	79

各旬日別平

	観測年	10 月			11 月			12 月		
		1-10	11-20	21-31	1-10	11-20	21-30	1-10	11-20	21-31
		トルコハンスク	1903-1924	2.9	7.6	15.7	25.7	36.0	43.3	53.6
ヴ・イムバトスカヤ	1912-1931	5.0	6.0	11.6	19.6	26.6	28.6	43.9	50.7	63.6
エニセイスク	1900-1931	1.8	3.6	7.0	10.0	15.2	20.7	26.8	32.9	36.2
カザチンスコエ試験農場	1915-1918	-	4	8	22	25	33	39	42	41
クラスノヤルスコエ試験農場	1915-1930	-	-	6	11	13	11	10	12	14
トロイツコエ	1900-1930	0.0	1.9	5.7	10.8	17.6	24.1	29.9	35.1	40.0
ケ・ジ・マ	1919-1931	9	6.3	6.3	15.2	19.3	21.7	27.9	30.8	34.1
イリムスク	1902-1921	3.1	2.1	5.5	10.1	15.5	20.1	24.2	28.3	31.8
シヤマンスコエ	1900-1911	-	3.9	6.2	7.2	11.1	15.7	20.2	23.8	26.8
ブラトスク	1901-1928	1.0	3.5	6.0	9.0	14.1	18.3	23.5	39.0	28.0
タイシェト	1905-1937	1.3	2.0	2.5	8.7	13.7	18.6	22.8	25.7	28.8
ニジネウディンスク	1902-1931	0.0	0.0	2.7	8.4	6.4	8.7	11.7	13.6	14.3
トルコハンスク試験農場	1911-1931	0.0	5	9	11	14	16	18	21	24
タンゴイ	1906-1917	0.0	0.0	1.4	13.1	19.1	24.8	27.7	32.3	37.4
ジマ	1928-1930	5.0	3.5	4.0	10.6	10.9	21.0	22	25.5	27.1
ザラリ	1892-1897	-	-	1.9	4.1	6.7	7.6	10.7	12.6	17.1
チレムホウ	1915-1929	-	-	-	4.0	4.7	4.3	8.6	9.0	8.7
ウソリエ	1900-1918	-	1.6	2.5	7.2	9.4	16.1	21.4	24.2	26.9
イルクーツク	1900-1930	-	-	1.1	8.5	8.9	10.5	13.0	15.7	18.0
バヤンダイ	1912-1930	-	0.4	1.8	4.7	7.2	9.7	11.7	13.5	14.9
ヴェルフネウディンスク	1900-1921	-	2.2	3.5	3.7	5.3	8.0	10.2	11.7	13.2
チタ	1900-1916	-	-	10.5	4.7	5.5	5.2	5.0	5.7	6.3
クィケル	1908-1918	-	-	4.0	4.0	4.5	5.0	6.1	6.0	6.5
ネルチンスキイザウオド	1900-1921	-	0.8	6.2	8.8	11.1	12.3	11.1	12.1	14.0
オロウイヤンナヤ	1902-1914	-	-	1.1	1.7	2.0	2.4	3.0	3.2	3.1
スレテンスク	1901-1918	-	0.9	3.2	4.3	5.3	7.1	7.7	8.8	9.6
トロイツコサフスク	1902-1929	-	-	2.2	-	-	6.6	-	-	9.8

均積雪深度(釐)

1 月			2 月			3 月			4 月			5 月		
1-10	11-20	21-31	1-10	11-20	21-29	1-10	11-20	21-31	1-10	11-20	21-30	1-10	11-20	21-31
77.4	84.7	88.2	93.9	97.0	100.0	105.9	103.3	110.2	121.7	113.8	109.5	108.7	70.5	67.3
69.3	75.8	78.2	82.1	87.7	89.7	92.0	93.7	92.4	91.4	88.4	77.6	52.9	36.3	15.8
39.3	45.4	48.6	46.2	52.5	54.8	53.4	51.7	46.8	40.1	25.9	11.7	2.2	0.3	-
48	47	55	60	65	73	65	62	72	53	50	45	-	-	-
12	12	12	10	10	11	11	6	4	-	-	-	-	-	-
4.4	48.1	52.5	55.4	56.7	60.0	62.3	61.8	60.2	54.3	43.5	25.9	-	-	-
38.9	41.7	47.0	49.8	50.2	52.5	54.6	52.4	49.0	48.0	43.0	22.4	7.7	-	-
36.0	38.8	40.0	42.4	44.0	44.7	45.9	44.7	37.9	23.0	8.0	2.8	2.8	0.4	-
29.8	32.5	34.8	34.6	35.9	36.1	38.8	36.3	30.2	22.6	16.4	24.6	-	-	-
33.3	36.0	36.3	37.4	40.2	38.8	40.0	39.7	32.4	21.3	-	-	-	-	-
33.9	33.6	35.6	35.3	36.8	37.6	39.8	36.8	28.1	16.3	6.7	2.8	0.8	-	-
15.1	15.6	17.9	17.9	18.3	18.8	18.3	14.2	9.2	4.2	0.8	0.1	5.5	1.0	-
26	28	31	30	31	32	34	34	29	24	16	7	-	-	-
41.1	43.8	46.2	48.7	49.8	54.0	53.0	52.8	51.0	44.5	30.6	4.4	-	-	-
28.5	30.7	30.4	22.2	22.5	22.9	21.3	14.6	8.8	3.6	2.0	1.3	-	-	-
16.2	17.9	26.0	32.2	32.4	35.0	26.3	24.6	16.3	0.9	-	-	-	-	-
12.3	13.4	13.8	14.6	15.0	16.1	18.9	13.6	14.6	11.0	-	-	-	-	-
27.4	28.2	28.9	30.4	29.1	28.8	33.2	27.1	10.4	8.4	-	-	-	-	-
18.4	19.7	21.0	22.5	23.9	24.6	24.8	21.9	17.8	15.7	9.0	-	-	-	-
16.2	18.8	19.7	20.7	21.7	20.4	22.4	21.8	20.0	1.7	1.2	-	-	-	-
15.3	17.0	18.1	18.9	19.2	18.9	18.1	14.6	7.9	4.7	1.9	-	-	-	-
7.0	7.1	8.2	9	10.0	10.4	8.7	5.8	1.7	-	-	-	-	-	-
6.4	6.8	7.8	7.9	8.3	8.0	8.2	8.5	5.9	12.0	-	-	-	-	-
15.0	16.3	17.0	18.2	19.0	18.7	18.1	16.1	13.0	0.1	14.0	4.0	-	-	-
1.6	1.5	1.9	2.1	1.8	1.9	0.8	0.4	0.1	-	-	-	-	-	-
9.8	10.7	11.4	11.2	11.4	11.7	10.2	9.8	6.5	2.8	0.1	-	-	-	-
-	-	13	-	-	7.7	-	-	0.3	-	-	-	-	-	-

1600—1931年間の観測による雲量 (其一)

區名	測候所名	観測年度	月別						
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
北地民族區	トルコハンスタ		5.8	6.6	6.9	6.4	7.0	7.9	8.2
”	ヴェイムバトスタ		6.4	7.1	6.8	6.6	7.0	7.6	8.1
エニセイスキイ	エニセイスク	1930—1931	6.2	6.9	6.6	6.5	6.9	7.0	8.0
カザチンスキイ	カザチンスコエ試験農場	1900—1930	5.9	6.4	5.9	6.3	6.4	6.5	7.8
クラスノヤルスキイ	クラスノヤルスタ試験農場	1914—1929	5.9	6.7	5.7	6.1	6.5	6.2	—
バラフティンスキイ	バラフタ	1914—1917	5.8	5.4	5.7	6.0	6.7	5.7	7.7
カンスキイ	カンスク	1900—1930	5.4	6.3	5.5	5.3	5.9	5.9	—
イランスキイ	イランスカヤ	1911—1927	4.9	5.7	5.7	5.9	6.7	5.6	5.7
タセエフスキイ	トロイツコエ	1901—1930	6.1	6.9	6.4	6.4	6.8	6.7	—
アバンスキイ	ドオルギイ・モスト	1910—1917	4.9	6.0	4.7	5.1	6.8	5.8	—
ウデレイスキイ	ルィブノエ	1909—1930	5.9	6.2	5.9	6.3	7.2	6.8	7.3
シトキンスキイ	ヂェブタキ	1912—1917	6.5	3.1	7.0	7.2	7.9	6.8	7.8
ケジュムスキイ	ケジマ	1900—1931	7.6	7.1	7.1	7.0	7.0	7.4	7.8
ニイジエ・イリムスキイ	イリムスク	1902—1931	5.8	6.5	6.3	6.4	6.7	6.8	—
ブラトスキイ	シヤマンスコエ	1905—1931	5.9	6.3	6.0	6.1	6.5	6.7	—
”	ブラトスク	1900—1931	6.5	7.2	7.2	7.1	6.7	6.9	7.3
タイシエトスキイ	タイシエト	1902—1930	5.3	5.8	5.1	5.5	5.8	5.9	—
ニジネウディンスキイ	エヌ・ウディンスク	1902—1930	5.0	5.6	5.4	5.5	5.8	5.6	—
トルコンスキイ	トルコウンスコエ試験農場	1900—1930	5.5	6.7	6.1	6.3	6.0	6.2	—
”	タンゴイ	1906—1931	5.3	7.0	7.1	7.3	7.3	6.4	6.2
ジミンスキイ	ジマ	1902—1930	5.9	6.9	6.5	6.4	6.3	6.2	—
ザラリンスキイ	ザラリイ	1900—1902	5.0	5.4	5.4	5.8	4.6	4.2	6.5
チュレムホフスキイ	チュレムホウオ	1914—1930	6.2	7.2	7.0	7.0	6.6	6.5	—
ウソリスキイ	ウソリエ	1900—1922	5.7	6.5	6.3	6.2	6.2	6.1	6.1
イルクツトスキイ	イルクツク	1900—1930	6.4	7.2	7.4	7.3	6.7	6.5	—
”	イルクツク試験農場	1928—1930	6.0	6.8	6.6	6.7	6.1	6.2	5.5
キレンスキイ	キレンスク	1900—1931	6.3	6.5	6.4	5.9	6.3	7.1	—

1900—1931年間の観測による雲量 (其二)

區名	測候所名	観測年度	月別						
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
エヒリト・ブラガトスキイ	バヤンダイ試験農場	1911—1930	5.1	6.1	6.5	6.2	5.8	5.1	—
ヴェルフネ・ウディンスキイ	ヴェルフネ・ウディンスク		5.2	6.0	6.5	6.4	6.0	5.5	—
チティンスキイ	チタ	1900—1931	5.2	6.1	6.5	6.7	6.4	5.5	4.9
オリンスキイ	ジュリィジャ	1911—1921	4.8	5.5	6.3	5.7	6.2	4.8	4.0
”	クィケイ	1908—1918	5.9	5.9	6.4	6.7	6.6	5.8	4.3
ネルチンスキイ	ネルチンスク	1900—1916	5.0	6.1	6.5	5.7	6.1	4.9	4.3
ネルチンスコ・ザウスキイ	ネルチンスキイ・ザウド	1900—1931	4.4	5.2	5.5	5.8	5.6	4.5	4.2
オロウイヤンニンスキイ	オロウイヤンナヤ	1902—1918	4.6	5.4	5.6	5.7	6.0	4.6	—
ボルジンスキイ	ボルジャ	1901—1926	4.4	4.9	5.5	5.8	5.6	4.3	—
”	カイラストイ	1911—1918	5.2	5.5	5.4	6.0	5.8	5.2	4.3
スレテンスキイ	スレテンスク	1900—1918	4.2	5.1	5.4	5.5	5.7	4.9	3.0
キャフティンスキイ	トロイツコサフスク		4.8	5.6	5.5	5.7	5.5	4.6	—

風位及

測候所名	北		北東		東		
	回数	風力	回数	風力	回数	風力	
トルハンスク	冬	11	24	11	27	28	88
	春	11	35	11	36	18	62
	夏	20	64	12	37	19	60
	秋	12	36	9	29	19	69
	年	54	159	43	129	84	279
	一回當り平均風力	—	3.0	—	3.0	—	3.0
シヤマンスコエ	冬	6.0	10.6	4.6	10.0	7.9	19.4
	春	8.2	16.6	6.9	22.7	10.8	41.2
	夏	10.8	29.9	8.9	26.9	8.9	23.9
	秋	8.8	26.0	6.4	23.2	8.7	25.4
	年	33.8	83.1	26.8	86.8	34.3	109.9
	一回當り平均風力	—	2.5	—	3.5	—	3.0
エニセイスク	冬	4.9	9.8	6.2	9.3	21.7	47.8
	春	7.4	19.8	8.4	17.8	17.8	46.7
	夏	6.6	11.8	9.1	18.6	15.5	30.6
	秋	4.6	9.4	13.7	13.1	13.9	44.0
	年	23.5	50.8	37.4	58.8	68.9	169.1
	一回當り平均風力	—	2.1	—	1.6	—	2.5
ブラトスク	冬	7.4	13.3	5.5	8.3	15.1	27.2
	春	10.4	26.3	9.2	24.0	15.9	47.1
	夏	11.2	26.5	12.0	32.7	24.6	77.2
	秋	6.5	17.8	7.0	22.3	16.3	48.9
	年	35.5	84.4	33.7	87.3	71.9	210.4
	一回當り平均風力	—	2.4	—	2.6	—	2.9
冬	6.8	15.5	6.1	15.9	10.7	25.2	

風力(其一)

南東		南		南西		西		北西	
回数	風力	回数	風力	回数	風力	回数	風力	回数	風力
30	137	46	239	10	50	11	36	8	19
21	88	29	153	15	62	22	85	23	80
17	65	19	72	11	37	16	50	29	106
27	92	43	214	16	69	16	80	12	50
95	383	137	685	52	218	65	231	72	269
—	4.0	—	5.0	—	4.0	—	3.6	—	3.7
6.6	161.5	7.3	15.0	8.2	24.8	12.3	25.4	23.1	75.3
1.9	42.2	8.4	24.0	9.1	22.7	12.7	45.8	40.1	116.2
1.3	37.4	6.9	18.6	8.5	25.0	10.2	29.4	36.3	108.5
8.3	31.5	8.5	19.0	9.6	28.6	12.4	40.4	32.8	115.8
18.1	127.6	31.1	76.6	35.4	101.1	47.6	141.0	132.3	415.8
—	3.3	—	2.5	—	2.8	—	3.0	—	3.1
31.5	92.3	19.9	48.4	36.2	136.6	14.8	43.4	14.9	27.4
29.5	71.9	18.1	65.1	26.8	100.9	42.6	82.5	26.0	102.6
28.5	59.1	16.3	35.2	26.7	77.5	15.0	45.6	31.0	101.0
30.3	86.4	20.0	63.7	37.9	66.1	19.0	67.9	16.0	63.2
119.8	309.6	74.3	212.4	127.6	380.9	91.4	239.4	87.9	294.2
—	2.6	—	2.9	—	2.9	—	2.6	—	3.4
39.3	74.6	26.0	48.7	20.1	48.4	31.5	32.2	21.7	63.0
24.6	50.0	20.3	49.3	17.0	53.2	62.2	266.1	28.8	123.6
21.5	44.7	13.6	29.3	11.6	29.2	38.9	128.1	35.0	120.6
28.6	60.9	23.5	45.9	17.5	45.8	48.1	120.4	24.7	96.8
114.0	229.9	83.4	173.2	66.2	176.6	180.7	516.9	110.2	409.0
—	2.0	—	2.1	—	2.7	—	2.8	—	3.7
17.7	43.5	8.2	16.9	9.7	21.8	14.4	46.1	15.3	58.3

風位及

測候所名	北		北東		東		
	回数	風力	回数	風力	回数	風力	
トルンスコエ試験農場	春	7.3	19.9	6.0	13.7	11.0	39.0
	夏	10.8	22.5	8.0	16.2	8.6	23.6
	秋	7.6	20.0	7.7	24.4	10.7	30.2
	年	32.5	77.9	27.8	70.2	41.0	118.0
	一回當り平均風力	—	2.4	—	2.5	—	2.9
ヴェルフネウディンスク	冬	5.1	11.6	8.1	16.1	17.7	44.3
	春	8.8	33.1	8.7	30.3	20.6	64.9
	夏	10.8	83.1	13.1	38.1	23.5	74.6
	秋	7.7	25.1	8.5	17.6	24.1	71.1
	年	32.4	152.9	38.4	102.1	85.9	254.9
一回當り平均風力	—	3.2	—	2.7	—	3.0	
ネルチンスキイ・ザウド	冬	9.2	36.8	14.4	28.0	9.8	16.5
	春	21.2	97.5	15.4	65.7	10.4	36.1
	夏	15.3	57.7	19.8	61.8	13.3	37.9
	秋	14.5	58.1	12.4	44.3	6.9	19.2
	年	60.2	250.1	62.0	200.8	40.4	109.7
一回當り平均風力	—	4.0	—	2.2	—	2.7	
クォイケル	冬	10.8	32.5	66.9	16.2	11.0	16.0
	春	30.9	163.1	15.6	62.2	17.1	31.6
	夏	15.1	57.2	19.5	65.2	20.0	70.9
	秋	15.8	69.1	11.6	38.2	12.6	29.2
	年	72.6	321.9	53.6	181.8	60.7	146.7
一回當り平均風力	—	4.4	—	3.4	—	2.4	
	冬	10.3	17.2	12.2	17.8	19.6	35.4
	春	14.7	44.8	6.5	10.9	12.4	14.8

風力(其二)

南東		南		南西		西		北西	
回数	風力	回数	風力	回数	風力	回数	風力	回数	風力
14.5	42.1	5.5	15.2	10.6	30.1	22.9	82.5	23.4	66.4
12.0	34.3	6.1	10.3	7.4	16.7	18.7	49.0	20.4	59.1
16.3	42.1	6.1	13.4	10.7	26.2	16.3	54.4	21.0	76.9
60.5	162.0	25.9	55.8	38.4	94.8	72.3	232.0	80.1	260.7
—	2.7	—	2.2	—	2.5	—	3.2	—	3.3
7.5	14.5	4.3	7.8	19.8	46.8	37.5	98.6	17.0	73.1
5.7	12.1	6.4	10.6	11.2	25.3	33.0	107.5	33.2	178.2
5.5	10.9	6.5	11.4	11.3	22.9	34.1	69.4	31.8	133.1
7.4	15.7	5.7	9.0	14.3	29.8	29.4	85.5	23.6	101.7
26.1	53.2	22.9	38.8	50.6	124.8	134.0	361.0	105.6	486.1
—	2.0	—	1.7	—	2.2	—	2.7	—	4.6
4.8	7.3	7.8	13.7	6.6	16.7	8.1	26.2	16.1	53.1
8.0	35.4	9.0	34.1	10.9	42.6	15.3	59.4	27.9	134.9
9.5	27.4	10.7	32.3	11.0	35.3	10.9	35.2	14.9	59.1
7.5	24.5	9.0	27.6	12.3	38.1	14.1	45.6	20.7	82.2
29.8	94.6	36.5	107.7	40.8	132.7	48.8	166.4	79.6	329.3
—	3.2	—	3.0	—	3.2	—	3.4	—	4.1
11.6	13.1	18.0	12.6	6.4	12.2	7.0	15.4	9.1	35.3
8.0	17.0	12.3	32.9	12.7	44.7	15.3	69.2	27.1	140.4
10.1	32.1	12.9	36.7	16.0	35.4	10.5	32.8	14.4	47.5
11.7	17.7	10.0	24.3	13.5	40.9	13.7	46.7	15.9	43.1
41.4	79.9	53.2	106.6	48.6	133.2	46.5	164.1	66.5	266.3
—	1.6	—	2.0	—	2.7	—	3.5	—	4.0
52.7	208.5	7.0	23.7	3.0	5.6	7.4	18.5	37.6	148.7
56.4	205.5	8.4	25.3	5.0	11.7	14.9	37.2	54.6	266.6

風位及

測候所名	北		北東		東		
	回数	風力	回数	風力	回数	風力	
イルクーツク	夏	9.8	25.6	5.0	6.0	9.4	15.9
	秋	10.2	25.5	8.3	13.8	18.1	31.7
	年	45.0	113.1	32.0	51.5	59.5	97.8
	一回當り平均風力	—	2.5	—	7.6	—	1.3
チタ	冬	11.8	23.4	4.8	7.6	12.6	17.5
	春	17.8	62.7	5.7	14.4	9.2	29.5
	夏	17.3	45.1	5.9	11.7	10.6	30.5
	秋	12.6	36.8	5.8	10.1	7.1	13.3
	年	59.5	168.0	22.2	43.8	39.5	90.8
	一回當り平均風力	—	2.8	—	2.0	—	2.5

風力 (其三)

南東		南		南西		西		北西	
回数	風力	回数	風力	回数	風力	回数	風力	回数	風力
51.3	143.9	10.8	24.1	6.6	13.6	21.3	59.0	46.0	165.5
45.5	147.7	5.6	15.3	4.7	9.8	12.5	30.0	51.9	220.1
205.9	705.6	30.8	88.4	19.3	40.7	56.1	144.7	190.1	801.2
—	3.4	—	2.9	—	2.1	—	2.6	—	4.2
1.5	9.6	4.3	14.8	7.1	27.5	21.8	77.6	29.3	75.1
11.8	51.4	6.0	23.6	6.7	25.3	23.9	111.4	47.3	211.0
14.1	55.3	10.5	33.5	6.1	19.3	18.5	65.9	26.5	80.8
8.4	30.0	7.2	27.8	6.5	22.3	22.8	91.2	33.5	123.2
38.8	146.3	28.0	102.7	26.4	94.2	87.0	346.1	133.6	490.1
—	3.8	—	3.7	—	3.6	—	4.0	—	3.6

1936年測定による地温

地名	月別及旬日															
	5月			6月			7月			8月			9月			
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
エニセイスク	-1	0	1	3	5	7	9	10	18	14	14	11	10	8	6	地下40層
カザチンスク試験農場	-1	-1	1	5	7	11	13	15	16	15	14	-	9	8	6	20
イランスカヤ	-	-	-	6	9	12	14	16	17	17	16	12	11	8	6	40
トウルンスコエ試験農場	2	3	5	8	10	13	15	16	18	17	18	14	13	11	9	50
ジマ	0	0	5	10	11	14	13	15	15	15	16	12	10	7	-	40
イルクツク	1	6	7	9	10	13	14	15	17	15	15	12	10	8	6	40
イルクツク農事試験場	1	5	6	8	9	13	14	16	17	15	11	9	7	5	5	20
スリュヂャンカ	1	3	5	6	7	9	9	11	14	14	14	12	10	9	8	40
バヤンダイ	0	1	2	6	7	10	11	3	14	12	14	8	3	5	3	20
ペトロウスキイ・ザウダ	0	1	1	4	6	7	8	4	10	14	11	9	8	4	3	40
チダ	-5	4	3	7	9	12	14	18	15	13	15	11	8	6	3	20
オロウァンナヤ	2	6	5	9	11	10	13	16	15	14	14	13	11	9	6	40
ボルジャ	1	4	4	7	11	11	14	15	16	15	14	14	10	9	7	40

文 献 目 録 (其一)

文献番号	著者名	書名	発行地	発行年
1	ウズネセンスキイ・ア・ヴニシヨスタコウイチ・ヴニベ	東部シベリヤ地方氣候研究の主要資料(原文、表、地圖)	イルクーツク	1913
2	シヨスタコウイチ・ヴニベ	シベリヤ地方の氣候概観(シベリヤ農業の博物學的條件 第1卷)	ノウシビルスク	1931
3	カミンスキイ・ア・アルビンシムテイ・イニ・エス 共編	ソ聯邦氣候要覽(氣候學協會版)	レーニングラード	1931
4	ウズネセンスキイ・ア・ヴニシヨスタコウイチ	ソ聯邦氣候圖(農業氣象研究叢書 21卷 1號)	レーニングラード	1927
5	シヨスタコウイチ	ヤクオート共和国及其の接壤地方氣候資料(アカデミナウク・ヤクオートの研究委員會 第6卷)	レーニングラード	1927
6	”	イルクーツク市の氣候		
7	”	東部シベリヤの積雪(地圖附)		
8	”	東部シベリヤ水域の氷結厚度(地圖附)(ロシア地理學協會東部シベリヤ支部彙報 3412號)	イルクーツク	1903
9	レゲリ・エル・オ	農業に必要な氣象資料(應用植物學調查局叢書 Ⅱノ1號)		1909
10	ウズネセンスキイ	氣候、天氣、農業(『自然』誌1922年9號)		
11	セリヤニノフ・ゲ・テム	農業氣候學方法論(農業氣象學研究叢書 22卷)	レーニングラード	1930
12	”	農業的に見た氣候の價值(20卷)	”	1928
13	”	農作物の氣候的徵候による分類の問題(21卷)	”	1930
14	ロスケ・エ・ゲ	農業氣象學 2版	モスクワ	1913
15	マレエフ・ヴニベ	氣候馴化の理論的基礎(應用植物學研究叢書附録61號)	レーニングラード	1933
16	ベルグ・エル・エス	氣候學の基礎	モスクワ、レーニングラード	1927
17	シプチンスキイ・ア・ヴニ	氣象學と氣候學の基礎	”	1933
18	ウヰイロフ・エヌ・イ	北地農業問題	レーニングラード	1931
19	ブロウノフ・ベ・イ	農業氣象學とその當面の使命		1923
20	ウエルメニチュフ・ルウミヤンツェフ 共編	旱魃の對策(旱魃對策全ソ會議報告集)	モスクワ、レーニングラード	1932
21	イワノフ・エフ・エル	植物の物理化學的徵候に及ぶ氣候的因子の影響(應用植物學研究叢書 8ノ2等)		1922-23
22	セリヤニノフ・ゲ・テム	氣候的徵候による農業區の分業化		
23	ゲイゲル・エル	ソ聯邦植物栽培學 1卷 1分冊	モスクワ、レーニングラード	1933
24	フドロフ・エヌ・エス	地面氣層の氣候	”	1931
25	タラセンコフ	クラスノヤルスク管區の氣候特性	クラスノヤルスク	1928
		トルハンスキイ地方	”	1930

文 献 目 録 (其二)

文献 番號	著 者 名	書 名	発行地	発行 年
26	ウ・インベルグ教授	シベリヤの氣候(ソ聯シベリヤ百科 辭典 2巻)		
27	コロスコフ	極東地方の氣候區(『極東の生産力』 叢書 2巻)	ハバロフス ク	1927
28	カサトキン・イ	氣候から見たエニセイスカヤ縣のス テツプ(『北部アジア』1926年 4號)		
29		永久凍土層(アカデミーナウク調査 報告集)	レーニン グ ラード	1930
30	スウムギン・エム・イ	永久凍土層	”	1931
31	交通人民委員部鐵道建設中 央研究所	永久凍土層と鐵道建設	モスクワ	1931
32	パレノフ・ベ・ヤ	科學に於ける凍結と云ふ術語に關す る管見	イルクツク	1633
33	ト・ガリノフ・ア・ヤ	ブリエニセイスキイ地方の地理的景 觀	クラスノヤ ルスク	1925
34	ボロウキン・ア・ア	シベリヤに於ける所謂永久凍土層問 題に就て	チ タ	1922
35	シウスタウウチ	中央シベリヤ地方の自然地理概観	イルクツク	1925
36		ザバイカル州に於ける土地所有及土 地利用研究委員會資料 第 4巻ウイネキン・サブレル著、地理 的概観 2巻 プトウウチ、農地の自然地理 的條件の特性と關連する農業 ザバイカル地方の土地灌溉に就て (ロシア地理學協會ブリアムール支 那、シトロイツコ、キヤフタ支部報告 11巻1.2. 1908—6巻 2號—1903)	セント・ベ テルブルグ	1898
37	ドブロムイソロフ・ア・エヌ	サバイカル地方の氣候(主としてそ の西半部に就て)	チ タ	1894
38	キリロフ・エヌ	ザバイカル地方の氣候とその自然及 住民の經濟生活に及ぶ影響につい ての資料(『極東地方の生産力』叢書第 2巻)	ハバロフス ク	1927
39	ベリツフヴ・ベ	レノ・バイカルスカヤ州の牧畜及農 業概観(その地理的 經濟的條件につ いて)(附圖)	イルクツク	1928
40	ミロトウ・ルツェフ・カ・エヌ	トルンスコエ試驗農場	イルクツク	1916
41	ピサレフ・ウ・エ	ブリエニセイスカヤ農事試驗場報告 (1915—1926) 7巻	クラスノヤ ルスク	1928
42		” 8巻(農耕の部)	”	”
43		”	”	”
44	ドリヤモフ・イ	バヤンダイ試驗農場調査報告 1914 —1916	イルクツク	1927
45	プ・ラノフ・エル・ベ	エニセイスカヤ縣の氣候概観(イル ク・ウトスカヤ縣、エニセイスカヤ縣 土地利用調査資料 4巻 1號)	セント・ベ テルブルグ	1894
46	ノウ・セロフ	東部シベリヤ北端地方の農業	イルクツク	1934
47	ボゴレボフ	東部シベリヤの氣候の大陸性 地理 學34巻1—2號		
48	シリニイチ・エヌ	地球の氣候的分類 地理學32巻3—4 號		

文 献 目 録 (其三)

文献 番號	著 者 名	書 名	発行地	発行 年
49	オシ・ルコフ	イルク・トスカヤ縣の氣候(イルク・ トスカヤ縣、エニセイスカヤ縣、土地利 用調査資料) 2巻 1號		
50	ゲラシモフ・イ・ベ	ソ聯及其の接壤國平原の氣候的地相 に就て(アカデミーナウクドク、チヤ エフ土壤研究所報告 8巻 5號)	レーニン グ ラード	1933
51	チュ・チュフ	氣候 51(ザバイカル縣農業研究資料 1巻)	チ タ	1926
52	ミロトウ・ルツェフ・カ・エヌ	東部シベリヤ地方自然地理概観	イルクツク	1933
53	ワンゲンゲイム・ア・エフ			
54	ウ・ズネセンスキイ・ア・ヴ	東部シベリヤの氣候 氣象報1933年 4號		
55		シベリヤの農業と氣候 (シベリヤ 百科辭典 2巻)		
56	ダニレフスキイ・エム	アムール縣農業の氣候的基礎		
57	コロスコフ・ベ・イ	練氣温量の問題に就て(農業氣象報 告 1930年21巻)		1925
58	”	(”)		
59		東部シベリヤ天氣通報(イルクツク 氣象臺) 1930年度1—36號		
60		産業地圖集中の氣候圖		
61	シウスタコウウチ・ウ・ベ	イルクツク縣の氣候(イルクツク縣 統計年鑑 1922—23)		1924

第二篇 ブリヤート・モンゴリヤ共和国の氣候概説

第一章 總論

ブリヤート・モンゴリヤ共和国は西から東へ延び東經 98°20' 乃至同 116°30' (グリニッチ基準) 間に位し、その南北にかけ最も廣大なる地域は北緯 50° より同 57° にわたつてゐる。その版圖が著しく廣範圍に亙ること並に複雑なる地形とは遠隔地は元より、近接地の氣候要素に甚しき相違を來す原因をなして居る。インキンスキイ族 (アイマーク) のイルクート河谷にあるモンドイ、トツンカ及バイカル湖畔のクルトウクの三測候所に於ける 12 月の平均温度は各々 (-) 16.2° (-) 22.5° (-) 12.7° を示して居る。これによるとトツンカはクルトクより 9.8。低い事となる。此れは距離にして 80 露里 (譯者註—1 露里 1.037 軒) 即ち 10 露里毎に 1.2° の遞減となる。バイカル湖が氣候に及ぼす影響をこゝに見るのであるが、バイカル湖の水は夏期には熱せられ、除々に温氣を放散し湖水が特に冬期の前半、即ち湖面が氷結するまで沿岸各測候所の氣温の経過に著しき變化を及ぼすのである。ウエルホレンスクに於ける 12 月の平均氣温は (-) 25.2° であるが、ウシカニ諸島のそれは僅かに (-) 9° である。兩地間の距離は 160 露里であるから 10 露里に付 10° の差異を示す。この種の對比は氣温にのみあらわれるのではない。ベ・ベ・シヨスタコーザイチは、ハマル・ダバンの各傾斜地にある測候所の降雨量に関する資料を引用してゐる。それによると、北西傾斜地の各測候所には次の様な降雨量を示して居る。即ちウトリク—668 耗、ベレヨムナヤ—669 耗、ムリノー—848 耗、ボルカザルマ—103 耗である。南東斜面の各測候所イノケンチエフスカヤ—261 耗、ウエルフニエウヂンスク—217 耗、セレンギンスク—157 耗である。ボルカザルマとセレンギンスクとは直線距離で僅か 130 露里であるから 1 年間の降雨

量はセレンギンスク方面へ 10 露里進むに伴つて 617 耗の減少を來すわけである。かくの如き近接地相互間の天候要素の特異性は當該地の地表構成 (山嶽或は水域) によるものである。地理的狀態は氣候の變化に一定の正則性を興へる。ブリヤート・モンゴリヤ領域に於てはこの變化は特に西から東へ轉位することによつて顯著である。こゝに略同一緯度上にある西部シベリヤ並に極東の諸地點をとつてみると、この相異は年氣温の上に明らかに表れて來る。

測候所名	緯度	經度	年平均温度
バルナウル	53°20'	83°48'	1.1
トムスク	56°29'	84°57'	- 0.5
ミヌシンスク	56°06'	87°46'	0.6
イルクーツク	52°16'	104°39'	- 0.9
ウエルフネウヂンスク	51°49'	107°35'	- 1.7
バルクジン	53°37'	109°38'	- 2.2
ボルジヤ	50°24'	116°29'	- 2.6

この相異は各月に於て一層明確な對比を示す。

各測候所に於る雲量は次の様な量を表して居る。

測候所名	雲量百分比				
	一年	冬	春	夏	秋
バルナウル	61	65	57	56	67
トムスク	71	71	66	69	78
ミヌシンスク	61	62	58	59	64
イルクーツク	59	55	56	64	61
ウエルフネウヂンスク	53	54	59	61	56
バルクジン	61	44	56	61	67
ボルジヤ	41	27	40	56	40

年平均雲量は明らかに西部より東部に進むにつれ減少して居る。この關係は特

に冬期及春期の一部に於て明瞭である。雲量と降水量とは大體平行して居る。すなはち降水量に於ても同方向に沿つて若干の減少を認める。一年間の降水量はバルナウールで336耗、トムスクで478耗、ミンシンスクで307耗、イルクーツクで369耗、ウエルフネ・ウーヂンスクで204耗、バルグジンで260耗、ボルジャで235耗である。而して日照は次の如くである。

測候所名	一晝夜の日照時間		
	年平均	夏	冬
クラスノヤルスク	5.0	7.8	2.7
イルクーツク	6.6	8.1	5.0
チタ	7.1	8.5	5.8

この地区の日照は充分である。これも亦西より東へ行くに従つて増大する。この日照関係の點に於ては南部の療養地すら上述の地方に劣る。例へばハ ril に於ける日照時は4.5、ジェレズノ・ヴオドスツクで4.9、エセントウキで5.1、アバスタウマンで5.5なのである。ア・イ・ヴオイコフ教授は6月及9月のチタに於る日光及温度はスイスの何の測候所よりも多量であると述べて居る。ザバイカル地方の他の所にしても、ルガノ及びモントレを除けば夏期スイスの測候所よりも暖く、アクシヤ及トロイツコサフスクは6月8月に於ては、病人や旅行者の最も集る9月のモントレヤルガノより暖い。ザバイカル地方では相當に寒い月である9月ですらダボス・シリシ或はツエルマトより温度が高い。尙此等の測候所は上述の月に屢々より寒い山嶽地方を旅行する多くの訪問者で賑ふのである。

ブリヤートの氣候の特異性は年高低温度の振幅即ち、酷暑月及極寒月の夫々の平均気温間の差違である。タリコグルキンツエヴァイツチ氏に依ればトロイツコサフスクの年平均高低気温の振幅は攝氏45°8'分である。而してこの地の酷暑日と極寒日との間には60°の開きがある。アルシヤン(トウキンスキー族(アイマク)測候所)では年平均高低温度の振幅は40°1'で、その極寒日と酷暑日との差違は

年に依り66°3'から73°3'に達してゐる。ヴオズニネセンスキー氏に依れば東部シベリア諸測候所の年平均気温振幅は33°3'乃至45°2'で、最も差違の尠いのはバイカル湖畔の諸測候所である。歐露に於てはこの振幅は25°乃至35°である。上述のブリヤート・チヤの氣候の特異性は大陸として特長づけられる。

第二章 西部三盟(アイマク)の氣候

西部三盟即ちアラルスキー族、ボハンスキー族及エヒリツト・ブラガ₁₁ツキー族の氣候的特長に關し、此等三盟内及イルクーツク縣の隣接地點の諸測候所に就いて氣象的觀察を試みれば、次の如くである。

測候所名	北緯	東經	標高	観測年數
キメリテエイ	54°08'	101°59'	436	9
クトウリク	53°24'	102°42'	525	7
ジマ	53°53'	102°03'	458	19
コノウアローゾ	54°0'	103°01'	—	11
チエレムホーゾ	53°00'	103°09'	330	15
ボハ	53°09'	103°47'	—	4
イルクーツク	52°16'	104°19'	467	46
ジエルドフカ	52°39'	104°33'	512	18
ホゴト	53°17'	105°49'	568	13
ハルバトーフスカヤ	53°45'	106°02'	557	17
オリホン	53°04'	106°54'	459	20

引用した上記測候所各の月及年平均気温は勿論同一ではない。

以上のうち若干測候所につき月平均気温表を掲ぐれば、

月	ジマ	チエレム ホーゾ	イルクー ツク	ジエルド フカ	ハルバト ーフカ	オリホン
1月	-23.4	-22.7	-21.4	-23.4	-28.0	-18.0
2月	-18.9	-19.0	-18.3	-20.2	-23.6	-16.4

3	月	-11.3	-11.5	-9.7	-13.4	-15.2	-10.1
4	月	-0.4	-0.1	-0.8	-0.1	-1.7	-1.8
5	月	9.3	8.8	8.6	8.8	8.2	4.5
6	月	16.0	14.7	15.3	15.1	13.7	10.1
7	月	18.7	17.8	17.9	18.2	18.1	13.7
8	月	15.8	14.6	15.3	15.5	14.3	14.1
9	月	8.1	7.2	8.1	7.6	6.6	8.7
10	月	1.7	1.4	0.1	0.6	-3.3	1.3
11	月	-13.0	-13.0	-10.6	-13.8	-15.3	-7.0
12	月	-21.7	-22.3	-18.7	-2.0	-24.5	-13.9
年		-1.8	-2.3	-1.0	-2.3	-3.8	-1.2

上掲資料により各所の気温に差違のある事は明瞭である。最低気温はハルバトーフスキイの1月で、同月の最高気温はオリホンである。西部の各測候所の1月の平均は丁度(-)22°である。2月に於ける最高気温は同じくオリホンで、最低気温はハルバトーフスキイである。西部各地は兩者の中位を占めて居る。3月に於てはイルクーツクが既にオリホンより暖い。最寒地はシールドフカ及ハルバトーフスキイである。4月には各地共オリホンより暖い、5.6.7月も同様である。8月に這入ると各地共平均して来る。9月に至ればオリホンが他より暖くなる。10月ではハルバトーフスコエが最低気温を示し、他の各地は大體同様である。11月の聲を聞くと、オリホンが最も暖く、ハルバトーフスキイが依然最低気温を示す。12月もこの状態が繼續する。かくの如く湖岸に位置したオリホンが最も滑らかな気温の高低を示し、冬季この地は他の地點よりも遙かに暖く、夏期はより寒い。北東に位置するハルバトーフスキイが温度の變化最も甚だしい。冬期この示地は特に寒く夏もうすら寒い。此地の各月平均気温は月の變る毎に非常な差違をす。最も甚しい気温の變化を示すのは春と秋である。他の時期は比較的その度合が低い。一般に西部地方はその気温に於て中部シベリヤ低地を想はせ、北東地方

は最も甚しい温度の高低を現はして居る。バイカル湖岸地帯は湖水の影響を明瞭に蒙つて居る。23,390立方呎に及ぶバイカル湖の大水量は實に温氣の一大蓄電池である。30,000平方呎に等い水面は暖い半年間に多量の光熱を吸収する。温暖期に入ると共にその水面は徐々に暖まるが尙ほ長い間陸地よりも著しく冷く、大氣を冷却する。従つて湖岸地帯の夏は比較的涼しい。冬期にはその暖氣を徐々放散しこれにより冬期前半の気温は比較的温暖を保つ。この影響は前記各旗(アイマク)に及ぶのであるが湖岸に近い程その度合が強い。

四季及植物生長期に於る平均気温は次の如くである。

測候所名	冬	春	夏	秋	植物生長期
ジマ	-21.3	-0.8	16.8	-1.3	13.5
チエレムホヴオ	-21.3	-0.9	15.7	-1.4	12.6
イルクーツク	-19.4	-0.6	16.1	-0.7	13.0
ジエールドフカ	-21.5	-1.5	16.2	-1.8	13.0
ハルバトーフスコエ	-25.4	-2.9	15.3	-4.0	12.1
オリホン	-16.1	-2.4	12.6	1.0	10.2

西部の諸測候所に於ける寒い冬もバイカル湖岸に於ては緩和で、春及夏は比較的冷涼で秋は比較的温暖である。これはバイカル湖の明確な影響である。暖められた大量の湖水は徐々に暖氣を發散して、寒氣をやわらげる。ために此の地方の気温の月平均偏差はバイカル湖より離れた他の諸地點に比し遙かに低い。植物生長期に於ける平均気温も低く、その爲に植物にとつてこの條件は餘りよくない。それ故バイカル湖岸の植物界は極めて獨自である。即ちこの低地に於て山嶽地方に特有の丈の低い植物を見出す。巨大な紅松や樹幹の眞直な松は多くの箇所に於て、いじけた灌木を呈してゐる。しかしこの灌木林は湖畔の砂濱を強固にし、卓越風の方向に向つて湖岸の移動するのを防いで居る。湖畔の沼澤は白樺の雜林でおゝわれて居る。

降水量

當地方に於る各観測所の月別降水量は次の如くである。

1 月	4.4—13.8 耗	7 月	49.6—87.2 耗
2 月	3.1—11.2	8 月	49.9—78.6
3 月	2.9—6.8	9 月	28.1—48.8
4 月	6.0—16.1	10 月	11.5—25.1
5 月	18.1—30.6	11 月	7.9—21.2
6 月	34.5—58.7	12 月	7.4—23.1

年降水量は272.0耗乃至389.0耗である。

以上の数字の中には各測候所に比し 特別に降水量の少い湖岸の測候所オリホンは含まれて居ない。オリホン測候所の年降水量は168.3耗である。西部より東部へ順次に各測候所を探つてみると次第に降水量の減少する事が容易に解る。その最大量はジマー(389耗)であり、最小量はオリホンである。

各測候所別に四季の降水量を示せば次の如くである。

所 名	冬		春		夏		秋		年	
	降水量	%	降水量	%	降水量	%	降水量	%	降水量	%
ジ マ ー	48	12	49	12	210	54	82	22	389	—
コノワローゾオ	41	11	50	13	195	53	84	23	370	—
チェレムホーゾオ	32	10	40	12	195	60	60	18	327	—
バ ハ ン	18	7	32	12	163	61	54	20	267	—
イルクーツク	33	9	51	13	216	57	77	21	377	—
ジェルドフカ	21	6	31	11	196	65	55	18	303	—
ハルバトフ	16	6	31	11	182	65	51	18	290	—
オリホン	11	6	12	8	118	72	22	14	163	—

即ち年降雨水量の6乃至12%は冬季に降下し、オリホンに於けるそは6%、ジマーに於て12%である。春期は8—14%、夏期は53—72%、秋期は16—23%とな

つてゐる。冬春秋の各期は西部より東部に行くにつれ、降水量%は減少するが、夏期に於てはかへつて上記の方向に従つて降水量の増大をみる。

冬季に於ける降水日数は次の如くである。

1 月	5—13日	6 月	7—11日	11 月	7—20日
2 月	3—10日	7 月	8—15日	12 月	3—19日
3 月	3—8日	8 月	9—18日		
4 月	4—9日	9 月	7—14日	年	80—150日
5 月	7—13日	10 月	6—12日		

茲にも亦年降水日数67日といふ特別に降水量の少いオリホンは除外した。オリホンに近い降水日数を示すものにホゴトの80日、パハンの81日及びチェレムホゾオの97日がある。概して北部の測候所程降水日数の多い事がわかる。尙四季に於て降水日数が最も多いのは温暖期である。

積雪量

上記諸旗に於ける積雪量は次の如くである。通常降雪をみるのは10月の中旬であり積雪量は2匁に達し、下旬に至れば4匁となり、11月の下旬に22匁に及び12月の下旬には39匁、1月下旬には44匁、2月下旬には50匁に達する。この積雪量は3月上旬迄続き以後次第に解け初め4月下旬には全く消え去る。積雪量も西部より東部に行くに従ひ減少するのであつて、降水量に現れる一般の特長と符合して居る。最も積雪をみるのは3月上旬の10日間であるが、この時でも何れの測候所に於ても30匁を出づることはない。但し最北のコノワローゾオ(北緯54°01')のみは50匁に達する。各測候所共積雪をみるのは10月の中旬であり、その溶解し去るのは4月の下旬である。

雲量

雲量は氣温に非常な影響を及ぼす氣象的要因の一つであることは前述した。空を覆ふ雲は空中に放出さるる暖氣を遮蔽する。従つて春秋の曇つた夜には朝霜を見ることが無く、その晴れた夜に冷寒をみることは説明するまでもない。又一方雲は日中光線の地上射照を妨げる爲、温暖期に於ても寒さを覺へしめる事がある。

各測候所の四季別雲量百分率は次の如くである。

所名	年	冬	春	夏	秋
ジマ	59	57	57	62	63
イルクーツク	59	55	56	57	61
ジェルドフカ	56	51	50	63	56
ハルバトーフスコエ	58	53	52	66	62
オリホン	54	50	52	60	54

當地方に於る年雲量は54%—59%である。最も多いのは夏及秋である。それが西部より東部に進むにつれ減少する事も同様である。最も雲量の多い月は6.7.8月であり、8月には60%に達する。

日照

日照は總ての生物界に重要な氣候的要因である。日照は雲量に直接支配される次表は一晝夜に於ける日照時である。

一晝夜の日照時間

月別	ジェルドフカ	イルクーツク	月別	ジェルドフカ	イルクーツク
1月	3.0	3.9	9月	6.7	6.7
2月	3.3	6.8	10月	5.6	5.1
3月	8.9	8.3	11月	3.6	3.9
4月	9.2	9.3	12月	2.6	2.5
5月	9.3	8.3			
6月	8.3	9.2	年	6.6	6.6
7月	8.3	8.2	夏	8.2	8.1
8月	7.4	7.3	冬	5.0	5.0

上掲兩地に於ける日光量は可成り豊富である。歐羅南部地方にも劣らない。日光療養の行はれる地方の著名測候所に於てさへ日光量はこれよりも遙かに少い。

風

本地方諸旗に於ける卓越風は西及南西風である。平均風速は次の如くである。

平均秒速(米)

所名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
ジマ	0.7	0.8	1.6	2.4	2.4	1.7	1.3	1.3	1.5	1.4	1.1	0.9	1.4
ジェルドフカ	1.0	0.8	1.6	2.4	2.3	1.7	1.3	1.3	1.5	1.5	1.4	1.1	1.5
ハルバトフカ	1.5	1.5	2.2	3.1	3.4	2.7	1.9	2.1	2.3	2.4	2.2	1.7	2.2
オリホン	4.7	4.8	5.5	5.6	5.3	4.6	4.0	5.1	6.3	7.3	8.7	7.5	5.6

年平均風速は西部より東部に進むに従つて増大する。ジマ測候所では1.4であるがオリホンでは5.6である。オリホンに於てはこの氣象要因に在つてバイカル湖の影響がうかゞわれる。沿岸風の爲にオリホンの風速は大きくなつてゐるのである。西部諸旗に於ける月平均風速の大きい月は常に4.5月であるがオリホンでは11.及び12月である。

氣壓

上述した地方の各測候所に於ける氣壓は次の如くである。

所名	年平均	最高平均	最低度平均
ジマ	723.3	743.3	706.1
イルクーツク	722.8	742.3	704.2
ジェルドフカ	720.0	738.9	701.6
オリホン	722.3	732.9	707.2

各測候所に於ける最低氣壓は溫暖期特に5、6月に、而して最高氣壓は冬期特に2月に觀測される。

濕度

相對濕度の年平均はジェルドフカに於て朝は85を、正午は62を、夕は79を示す

イルクーツクに於ては朝83、正午60、夕75である。

前掲各測候所に於ける各月の相対湿度は午前中は變化が少い。最低湿度は常に5月にあらはれ、その月平均60、最高湿度は11月にあらはれ95に達する。正午の最低は5月の37、最高は12月で80—85を示す。1日の中でこの時刻は湿度の動搖が最も大きい。午後の最低は5月の58で、最も乾燥するのは4、5、6月である。最高湿度は1、2月にあらはれ85に達する。

第三章 トウンキンスキー盟の氣候

本旗はバイカル湖南端より西へ遠く延び、前記諸盟よりかなり南部に位し、且つより西方に位して、それらより分離して居りその南東部はバイカル湖南西端と接して居る。

本盟の氣候の特長は次の諸測候所によつて明かにされてゐる。

モンドウイ	北緯 51°42'	東經 100°59'	標高 1316米
シムキ	” 51°40'	” 102°00'	” 713
トゥンカ	” 51°45'	” 102°33'	” 724
アルシアン	” 51°52'	” 102°35'	” 893

氣 温

一方各測候所の海拔高度が相異り他方同緯度上に西から東へ位置する結果、測候所の平均気温に對し非常な影響を與へてゐる。この東西の方向の影響が各測候所の気温に強く現れてゐることは上述來の三旗の例によつても明らかである。

この地方の月平均気温は次の如くである。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
モンドウイ	-18.5	-17.3	-10.2	-2.0	6.0	13.0	14.8	12.5	5.9	-2.7	-11.1	-18.3	-2.3
トゥンカ	-22.1	-21.1	-9.1	-1.3	8.8	15.2	17.5	15.1	7.9	-1.1	-14.2	-23.1	-2.1
アルシアン	-25.5	-16.5	-8.0	-1.2	7.0	13.3	19.0	16.8	8.8	0.6	-10.6	-16.0	-1.0

前掲各測候所の各月平均気温が同一でない事は上記の資料にて明瞭である。1月の気温は西より東へ行くにつれ低下して居るが、2月にはこの傾向は表れない。例外を示すのは直接トウンキンスイキイ脈山嶽の傾斜地にあるアルシアンで山間に在ることがこの測候所の各月の平均気温に反映してゐる。即ち年平均気温は東より西へと反對の方向に低下して居る。これは専ら地形の起伏と標高の相異に因るものである。最も寒冷な月は1月である。この月には恐ろしい酷寒が屢々訪れるが、それにも拘らずバイカル以東に位置する諸旗の如き低温には下らない。4、5月にかけて気温は非常な飛躍をとげる。

四季の平均気温は次の如くである。

所 名	冬	春	夏	秋	繁茂期
モンドウイ	-18.0	-2.0	13.4	-2.6	10.4
トゥカン	-21.4	-0.5	15.9	-2.3	12.9
アルシアン	-19.3	-0.7	16.3	-0.4	12.9

夏は快適である。秋も凍寒の日は尠ない。植物生長期はかなり低温を示すが、特にモンドウイに於て甚しい。

降 水 量

本旗の各測候所に於ける各水量も亦かなり多様である。月平均降水量を示せば次の如くである。(單位 厘)

所 名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
モンドウイ	0.9	0.7	1.7	9.1	23.3	61.3	89.0	66.1	28.3	8.9	2.7	2.4	294.7
シムキ	3.7	3.0	4.5	18.6	40.1	53.9	81.1	85.1	41.1	13.0	9.1	7.6	260.8
トゥンカ	2.8	2.9	3.3	8.8	23.9	48.4	90.4	84.1	33.0	8.0	9.6	5.1	315.2
アルシアン	9.5	15.0	19.3	28.2	37.3	117.3	77.3	82.7	20.6	10.4	3.5	5.0	426.3

トウンキンスキー旗の年降水量は既述の諸旗のそれと大差は無いが、西より東

へのその配分は異なる。こゝでは反対に西部が東部より稍少量の降水量を示して居る。最低量はモンドウイの294.7耗、最大量はアルシヤンの426.3耗である。1. 2. 3. 4及11. 12の各月は降水量は少ない。多量なのは6. 7. 8月で、中位を占むるは5月及9月である。各期別降水量は次の如くである。

所名	冬		春		夏		秋		年降水量
	降水量	%	降水量	%	降水量	%	降水量	%	
モンドウイ	4	1	34	12	217	73	40	14	295
シムキ	14	4	63	17	220	62	63	17	360
トウソカ	11	4	36	11	223	71	46	14	316
アルシヤン	29.5	7	84	20	277	65	34	8	426

冬の降水量は極めて少く、降水量の1乃至7%にすぎぬ、既述六旗に比してその3分の1にすぎず、従つて冬全く雪をみない。春はその量に於ても%に於ても爾餘の諸旗よりも増大する。夏は最大降水量を示す。この時期は既述諸旗何處よりも多い。これに反し秋は減少し8乃至17%である。

降水日数

所名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
モンドウイ	2	1	3	6	8	11	16	13	8	6	2	1	77
シムキ	4	4	5	7	8	10	12	13	6	5	5	6	85
トウソカ	3	3	2	5	7	11	15	15	7	5	4	4	76
アルシヤン	14	8	10	9	11	13	20	11	7	5	3	7	118

上記の如く降水日は多くはない。而して温暖期が寒冷期より降雨日数が多い。即ち降水量と降水日とは平行して居る。7. 8月は2日の中1日は降水日である。

積雪

本盟は冬期降水量の少い爲雪は極めて少い。最西地モンドウイでは殆んど零に

等しい。たゞ東部に於て計量しうる程度の降雪をみる。この状況は前記西部三旗と大いに異なる。

雲量

年雲量はモンドウイで46%、トウソカで50%、アルシヤンで45%である。雲量の最も多い月は6. 7. 8月である。これら月には62%に達する。2月に最小量を示し、モンドウイで20%となり、東部に於て40%に達する。かくて本旗の年雲量は前記三旗よりも少ない。

日照

日照の観測は本盟諸測候所は計器を缺く爲未だ行はれて居らぬ。但し雲量と日照時とは平行すること、而しこの地は雲量少く標高が高いことからすれば日光及暖氣は相當量に達すると推測されるが、少くともイルクーツクよりは多量である。

風

本盟に於ける卓越風は北或は北西風である。年平均秒速は1乃至2.7米である。最も風速の大なるは西部のモンドウイである。月別の最大風速は5月に當り、トウソカで1.9米モンドウイで3.3米に達する。

氣壓

本盟各測候所に於ける氣壓は次の如くである。

所名	年平均	最高平均	最低平均
モンドウイ	650.0	659.0	644.0
トウソカ	700.0	718.0	684.0
アルシヤン	682.0	686.0	677.0

温暖な月には氣壓は低く、6. 7月が最も低い。8月末に上昇して9月に冬期氣壓の最高に達し、この状態が4月の初迄寒い間続く。4月に氣壓が下り初め5月に夏の氣壓となる。氣壓の降下は氣温の上昇と若干の関係がある。概してトウソ

スキー旗に於けるバロメーターの指示はかなり低い、これは本旗の位置の高いことを示す。

濕 度

相對濕度は次の如くである。

所 名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
アルシヤン	78	70	60	60	57	71	70	72	64	70	70	82	69
トウソカ	81	81	73	60	54	56	69	74	73	76	84	86	72

本旗の極小濕度は5月に極大濕度は12月にあらはれる。トウソカスキー谷の最も乾燥するのは5月及それ以後の溫暖期である。寒冷期に相對濕度は次第に高まり、上記の如く12月に最高に達し1月も依然高く以後次第に下り最乾燥期5月に至る。

第四章 ウェルフネウヂンスキー郡及トロイツコサフスキー盟の氣候。

この地方の氣候は次の各測候所に於て調査されて居る。

所 名	北 緯	東 經	標 高(米)	観 測 年 數
トロイツコサフスク	50°21'	106°27'	758	36
セレンギンスク	51°06'	108°38'	570	7
オイムル	52°09'	106°48'	—	3
ウェルフネウヂンスク	51°49'	107°35'	542	30
ビチュウラ	50°35'	107°36'	—	10
ベトロフスキーザオード	51°17'	108°51'	801	31
インノケンチエフスク	50°55'	106°14'	—	7

上記各測候所に依る月平均氣温は次の如くである。

1月	自 22.6	至 28.2	3月	自 9.2	至 13.7
2月	” 18.7	” 22.5	4月	” 0.7	” 2.0

5月	自 5.3	至 10.3	10月	自 0.7	至 6.1
6月	” 13.6	” 18.3	11月	” 7.6	” 15.3
7月	” 16.1	” 20.3	12月	” 14.1	” 23.9
8月	” 13.1	” 17.3			
9月	” 5.9	” 9.6	年平均	” 0.5	” 4.3

かくの如く各地により氣温はかなり區々である。年平均最寒地は北東に位するベトロフスキーザオードであり、同じく稍寒いのはバイカル湖に近いインノケンチエフスカヤ及びアイムルである。酷寒期は1月、最暖期は7月である。西方諸旗區に比し此地の年平均氣温は稍々低い。各月に就いて比較すれば即ち1月は他より大いに寒く、2月も同様である。3月は他より暖い。これは恐らく雲量が少い爲に日照時は長く従つてまた大地及大氣の下層部が十分に温まる事に起因する、日光の影響は4月にも現れる。5月には甚しい上昇をみず以後の氣温は西方と等しくなり殆んど西方同様の變化を示す、但しこの地區の各測候所間には諸旗各測候所間にみられる如き甚しい差異は認められない。

この地區の四季及植物生長期の氣温次の如くである。

所 名	冬	春	夏	秋	植 物 生 長 期
インノケンチエフスク	-23.0	-0.4	17.6	-1.2	14.3
トロイツコサフスク	-20.2	-0.4	17.8	1.4	14.4
セレンギンスク	-24.1	-0.3	18.6	-1.0	15.1
アイムル	-18.5	-1.9	14.6	0.6	11.6
ウェルフネウヂンスク	-23.0	-1.0	17.5	-1.2	14.0
ビチュウラ	-22.9	-0.4	16.9	-1.0	13.7
ベトロフスキーザオード	-23.7	-2.9	14.5	-2.0	11.2

冬及春秋に於ける平均氣温は西部諸旗と大きな相違はないが、夏及植物生長期の平均氣温はかなり高温であり、特にウソキンスキー旗のそれに比して著しく高い。本地區の植物に對する氣温的條件は他に比しより快適である。又氣温昇降の

較差が著しく最暑、最寒日の較差は88度に達する。従つて湖畔の測候所を除外すれば、この地區氣候の大陸性はより顯著である。最低温は極めて低く-45度は稀でなく、-50°3'に達した年もある。所謂シベリヤの酷寒は前掲表の限りに於てはたゞ1月にのみあらわれて居る。2月に入れば最低温度も攝氏-35-36°を出ることはない。最低温度記録の情ない點は夏期ですら零下になる事がある。ウエルフネ・ウチンスクに於て1622年6月2日に-4°を、1923年6月13日に-3°1'を、1924年6月22日に-0.4'を示して居る。かくの如き寒波の爲に、この地區の植物生長期は甚しい打撃を蒙る。

降水量

本地區の降水量はバイカル湖畔ハマル・ダバンの北西斜面にある西向の隣接諸測候所のそれと著しい對照を示して居る。例へばブレヨムナヤの降水量は169.3耗、ムリノでは847.6耗、ウエルフネ・ミシハで527.8耗、ムイソワヤで491.3耗、223露里に於けるボルカザルマで1034耗である。こゝでは地形の影響が極めて鮮明に表れて居る。ボルカザルマ及セレギンスキー間の直線距離は130露里あるが、後者の年降水量は156耗である。ウエルフネ・ウチンスキー郡の西部諸村落と隣接する鐵道附屬地一帶の地方は兩地諸旗と降水量に於て著しい相異を示して居る。即ち北西の卓越風によつて運ばしれる雨量はハマル・ダバン山脈の風下の地方に降下するのである。かくしてこの山脈はブリヤート共和国領域の大部分に年降水量の少い原因をなして居る。この山脈から東方へ遠ざかるに従つて降水量は多少増加する。この地區の各測候所の雨量は156耗乃至330耗である。降水量の多い月は6.7.8月及月の一部であつて、爾餘の月は極めて少ない。

四季別雨量は次表の如くである。

所名	冬		春		夏		秋		年降水量
	降水量	%	降水量	%	降水量	%	降水量	%	
インノケンチエフスク	8	3	23	9	186	71	44	17	261

トロイツコサフスク	9	3	30	10	199	69	50	18	288
セレギンスク	5	3	15	9	114	73	23	15	157
オイムル	22	9	43	16	145	55	52	20	262
ウエルフネ・ウチンスク	16	8	19	9	140	64	42	19	217
ビチウラ	14	4	34	10	236	72	46	14	330
ベトロフスキー・ザヴオード	17	5	33	11	213	67	56	17	319

冬には年降水量の3乃至8%が降下するが、バイカル湖に近接する測候所では多少多い。春は9乃至16%、最もパーセンテージの高いのは湖岸のオイムル測候所で、夏は55乃至73%降下する。バイカル湖に近い測候所はもつと尠く秋は14乃至20%である。従つて、ウエルフネ・ウチンスキー郡及トロイツコサフスキーの年降水量は西部諸盟に比して概して尠い。

年降水日は次の如くである。即ちインノケンチエフスクで72日、トロイツコサフスクで80日、セレギンスクで57日、オイムルで89日、ウエルフネ・ウチンスクで77日、ビチウラで103日、ベトロフスキー・ザヴオードで107日である。一年中に於ては降水日数も降水量も、温暖期に於て多い。

積雪量

積雪量は各測候所とも極めて尠い。最大積雪量は2月の17厘である。ウエルフネ・ウチンスクでは積雪量の増大は2月下旬迄続くが、南部に位置するトロイツコサフスクでは上旬迄で、それ以後は減少する。雪積量の少い爲構造は徐々に出来上り、町では殆んど出来ないか、或は極寒時に出来るのみである。ウエルフネ・ウチンスク及トロイツコサフスクでは10月中旬始めて雪をみ4月上旬に融解する。其他の測候所では大體に於て11月の初旬であり3月下旬に消失する。雪の最も少いのはセレギンスク及ビチウラで、最も多いのはウエルフネ・ウチンスク及ベトロフスキー・ザヴオードである。

雲量

この兩地區に於る年平均雲量は50%である。秋は平均量の50%を示す。夏はもつと多く56%乃至64%であり、西部が最も多い。春はまた年平均量の50%、冬は全く少く38乃至48%である。月別雲量は確實の合則性を表はし1月より7月迄順次に増加し、後半年に至り減少する。たゞある所では12月に少しの増加をみる。最も雲量の少ないのは1、2月であり、若干の測候所では35%に減少する。最大量を示すのは各所共7月で51%乃至67%に達す。

日 照

トロイツコサフスキー測候所の資料によると、一晝夜の日照時間は次の如くである。即ち1月の4.4、2月の5.7、3月の8.9、4月の9.2、5月の9.3、6月の6.9、7月の9.2、8月の8.1、9月の7.5、10月の6.5、11月の4.7、12月の3.1、年平均7.0で夏期は8.4、冬期は5.6時間である。従つてこの地區は西部諸旗より日照時間が長い。こゝでは日照數250日を算する。各月別にみれば1月の18日、2月の16日、3月の25日、4月の24日、5月の25日、6月の25日、7月の27日、8月の22日、9月の19日、10月の20日、11月の15日、12月の17日となる。

風

この地區の卓越風は北西風である。各測候所の平均風速は區々であり、最大は南部のトロイツコサフスクで年平均2.9米に達する、ウエルフネ・ウーヂンスクでは年平均1.2、ペトロフスキー・ザヴオードでは1.5である。最大風速は5月で、その月平均は各所により2.2乃至4.4となり、最小風速は1月の0.6乃至1.9である。

氣 壓

本地區の氣壓狀況は次の如くである。

所 名	年 平 均	最 低 平 均	最 高 平 均
トロイツコサフスク	679.0	680.0	715.0
ウエルフネ・ウーヂンスク	715.0	690.0	735.0
ペトロフスキーザヴオード	691.0	677.0	710.0

最低氣壓を示すのは7月で、トロイツコサフスクに於て680、ウエルフネ・ウーヂンスクに於て706、ペトロフスキー・ザヴオードに於て684に下る。最高氣壓は12月でトロイツコサフスクに於て715、ウエルフネ・ウーヂンスクに於て735、ペトロフスキー・ザヴオードで710を示す。

濕 度

濕度は溫暖期の午後1時に於て50を越す事は稀である。朝夕の觀測時に若干の上昇をみる。各測候所の相對濕度は次の如くである。即ちトロイツコサフスクで午前7時の年平均濕度76、日中54、夕刻77。ウエルフネ・ウーヂンスクの年平均は朝の79、日中の56、夕刻の75である。最も乾燥するのは5月で、一晝夜の年平均濕度45乃至50%に達する。最も濕度の多いのは1月及12月で、一晝夜平均75乃至80%である。

第五章 バルグヂンスキー盟及ハリンスキー盟の氣候

バルグヂンスキー旗區は北緯52°以北のバイカル東岸に沿ひ、北緯57°まで伸び、その面積137,000平方露里、その南東方に45,400平方露里のハヤンスキー旗が接續する。又ハリンスキー旗はウエルフネ・ウーヂンスキー郡と隣接する。

此兩旗の氣候は下記各測候所に於て觀測された。

所 名	北 緯	東 經	標高(米)	觀測年數
トウルキンスキー・マーヤク	52°56'	108°12'	455	26
バルグヂン	53°27'	109°37'	507	19
ダガルイ・ドウシカチヤン	55°42'	109°53'	456	20
ヒーロク	51°25'	110°36'	811	15
ウクイル	52°32'	111°24'	—	9
ウエルシナ・カンヂン	52°19'	112°24'	—	4
ベレヴァーリナヤ	51°44'	112°37'	1019	13
ウスチ・イングル	53°29'	113°38'	—	3

氣 温

此兩旗の各測候所による月別氣温は次の如くである。

所 名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
トゥンキンスキー・マヤク	-18.6	-17.7	-11.4	-2.3	4.0	9.5	13.1	13.6	8.0	1.1	-6.7	-13.6	-1.8
バルグジン	-26.9	-22.5	-11.9	-0.3	8.4	15.7	18.9	16.2	8.8	-0.7	-13.0	-22.0	-2.4
ダガルイ	-25.6	-24.6	-18.9	-6.8	1.9	8.0	14.1	14.2	6.5	-0.4	-11.7	-20.0	-5.3
ヒーロク	-24.9	-19.5	-11.6	-0.3	7.7	14.2	17.4	14.7	6.7	-1.9	-13.0	-22.5	-2.7
ウクキル	-25.1	-20.2	-13.9	-2.6	6.2	13.3	17.0	13.7	6.2	-3.3	-14.4	-23.6	-3.9
ウールシナ・カンデン	-25.1	-21.9	-17.5	-3.3	5.2	12.7	16.1	12.8	14.3	-4.8	-15.1	-24.1	-5.1
ウスチ・イングル	-34.4	-24.5	-16.8	-3.4	6.7	14.6	16.5	13.5	6.2	-4.4	-20.8	-26.5	-5.8

1月が最も寒く、バイカル湖畔の測候所トゥンキンスキー・マヤクの平均氣温 $-18^{\circ}6'$ を示し、東部の測候所ウスチチングロで $-30^{\circ}4'$ に達する。2月もトゥンキンスキー・マヤクが最も暖く平均 $-17^{\circ}7'$ 、ウスチ・イングルで $-24^{\circ}5'$ である。3月はトゥンキンスキー・マヤクで依然 $-14^{\circ}4'$ 、ウスチイングルで $-16^{\circ}8'$ 即ちバイカル湖畔の測候所は東部へ隔つた所より暖かである。4月になると湖畔の測候所は最東の地を除いた他の各所より低温を示す。5月はトゥンキンスキー・マヤクが最も寒い。即ちそこでは 4° であるのに、他は 5.2° 乃至 8.4° 度に達する。6月には湖畔では 9.5° 、湖を離れた所では $12^{\circ}7'$ 乃至 $15^{\circ}7'$ を保つ。7月はトゥンキンスキー・マヤクは 13.1° 他は 16.1° 乃至 18.9° である。8月は各測候所共相等しく $12^{\circ}8'$ 乃至 $16^{\circ}2'$ である。9月には湖畔に於て 8° であるに反し、他の大部分に於ては 6.2° に下る。10月には東部諸測候所は西部に比し著しく寒い。この月の最暖地はトゥンキンスキー・マヤクで、こゝでは -6.7° であるのに、他の氣温は -13° 乃至 $2^{\circ}8'$ に下る。年平均氣温は規則正しく西より東へ -1.8° より -5.8° に低下してゐる。これによればバイカル湖が湖岸測候所の各月温度の移行に影響を及ぼすか明かである。湖畔では冬期さしたる寒氣をみず、しかも夏は快適である。又湖より遠い測候所の如く各

月氣温の較差が甚だしくない。

四季及植物生長期に於る氣温は次の如くである。

所 名	冬	春	夏	秋	植物生長期
トゥンキンスキー・マヤク	-16.6	-3.2	12.0	0.8	9.6
バルグジン	-23.7	-1.2	16.9	-1.6	13.8
ダガルイ	-23.4	-9.2	11.8	-1.9	9.0
ヒーロク	-22.0	-1.4	15.4	-2.7	12.1
ウールシナ・カンデン	-20.5	-2.5	14.7	-4.1	12.2
ウクキル	-22.9	-3.4	14.2	-3.8	11.3
ウスチ・イングルスカヤ	-27.1	-4.5	12.8	-6.3	11.5

四季別氣温を観察すると相當益するところがある。冬期トゥンキンスキー・マヤクの氣温は -16.6° であるが、他は -20° 乃至 24° を示して居る。最東位のウスチ・イングルスカヤでは $-27^{\circ}1'$ である。バイカル湖北端に位する最北の測候所ダガルイ・ドウシカチヤンもこの點に於ては例外をなさず、冬期平均 -23.4° を示し、バルグジンより暖く、ウスチ・イングルスカヤより著しく高温である。春はドウシカチヤンが最も寒く (-9.2°)、他は -1.2° 乃至 -4.5° であるが、やはりウスチ・イングルスカヤが最低を占める。夏はトゥンキンスキー、ドウシカチヤン及ウスチ・イングルスカヤが最も涼く、各測候所に就き氣候の開きは 11.8° 乃至 15.4° である。秋は規則正しく西方に於て高く東方に於て低く各測候所區々である。トゥンキンスキーでは 0.8° であるが、ウスチ・イングルでは -6.3° である。植物生長期は各所共 9° 乃至 $13^{\circ}8'$ である。最寒はドウシカチヤンである。ドウシカチヤンの1月の最低は $-45^{\circ}3'$ 、7月の最高は 28.4° で、その差實に $73^{\circ}7'$ である。トゥンキンスキー・マヤクの最低は1月の -34.6° で、最高は6月の 23° であるからその差は 57.6° である。バルグチンでの最低は1月の 46.8° 、最高は7月の 29.5° 、その差は 76.3° である。ウクイルでは最低は1月の 40° 最高は6月の 30° その差は 70° である。ウールシナ・コン

チンスカヤは1月-43°、6月30°でその差は73°、ウステ・イングルは1月-51°6月或は7月が最高で30°その差81°である。

かくの如く氣温較差の最小なるはトウキンスキー・マーヤクで、その最大なるは最東測候所のウステ・イングルである。

降水量

各測候所別に降水量を表示せば(單位耗)

所名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
トウキンスキー・マーヤク	5	3	4	10	25	40	62	68	44	18	27	30	335
バルグジン	6	3	2	6	10	22	60	57	28	7	14	18	232
ドウシカチヤン	15	10	10	10	21	35	48	54	39	10	13	10	281
ヒーロク	4	3	3	9	22	47	86	72	42	12	9	5	315
ウクルイル	3	1	2	4	11	46	76	87	23	4	3	3	261
ウステ・イングル	3	1	1	8	16	36	126	102	73	11	7	5	388

この區の各測候所の年降水量は232耗乃至289耗である。最も降水量の多いのは最東位にあるウステ・イングルである。バイカル湖東岸に臨む最西の測候所トウキンスキー・マーヤクを除けば降水量は西より東へと増大して居る。又1月から8月迄は次第に増加し、8月に最大量に達する。8月には各測候所の降水量は54より102.3耗を示す。9月に入ると激減し以後漸次12月迄減少する。

冬期に於る降水量の多い月は12月及1月で、最小は2、3月である。3月にはある測候所の如き1.0耗に低下する。

各期別降水量は次の如くである。

所名	冬		春		夏		秋		年降水量
	降水量	%	降水量	%	降水量	%	降水量	%	
トウキンスキー・マーヤク	38	11	39	11	170	51	89	27	336
バルグジン	27	12	17	7	138	60	50	21	232

ダガルイ	35	13	41	14	138	49	68	24	282
ヒーロク	12	4	34	12	205	64	64	20	315
ウクルイル	7	3	16	6	209	80	30	11	362
ウエルシナ・コンヂンスク	7	2	26	8	247	80	30	10	310
ベレバルナヤ	10	4	33	10	225	69	57	17	325
ウステ・イングル	9	2	25	7	264	68	91	23	389

四季別降水量は次の如くである。冬は各所共年降水量の2乃至12%が降下し、西部が東部より多量を示す。春は6乃至14%となり、その占むる位置の緯度・経度の関係による合則性に合致しない。夏は年降水量の50乃至80%の降下をみる。秋は10乃至24%である。降水日の状況は次の如くである。トウキンスキー・マーヤクで96日、バルグジンで90日、ダガルイ、トウシカチヤンで118日、ヒーロクで13日、ウエルシナ・コンヂンスカヤで92日、ベレヴァリナヤで113日、ウステ・イングルで109日である。

かくの如く降水日は各所共大體等しい。何處に於ても暖い期間に降水が多い。

積雪量

トウキンスキー・マーヤクで10月の末に4厘の積雲をみ、以後次第に増加し、3月には60厘となりこの月をすぎ4月に入ると減り始め5月の末全く融解する。バルグジンでは10月の始に1厘の積雪量をみ、こゝではわずかに1月の末迄その増加をみ17厘程となり、2月から溶け始め4月の中旬には全く消滅する。トウシカチヤンでは10月中旬より積り4月迄漸増し、74厘に達する。以後減少し5月末には3厘程になる。南部のヒーロクはトウシカチヤンと大差無く10月中旬より積り始め2月中旬迄積り最深大積雪量10厘を示し、3月末には全く消え去る。最東のウステ・イングルの積雪量は中位を占め10月下旬より積雪量4厘を示し、3月末迄増加し、30厘に達し4月末に溶解する。

雲量

この兩旗の年雲量平均は41乃至64%であり、東部より西部の方が稍々多い。夏は最大を示し冬最小となる。夏は最大69%に達し冬はある測候所の如き28%迄下る1月より5月迄各月漸増する。温暖期間は増減は無いが、10月以後は減少し始める唯トウキンスキー・マーヤクは例外をなして居る。即ちこゝでは雲量の増加は1月より12月迄繼續する。最大は12月であり83%となる。1月は激減して54%となる。2月には更に41%に減少するが、以後上記の如く遞増する。概してこの旗に於ては雲量は大きくなく各測候所の年平均は50%程度である。

日 照

この地方の大部分は平均1晝夜7時間の日照時間を有する。1月は4時間、2月は6時間、3月8時間、4月8.5時間、6月9時間、7月8時間、8月9月各7時間、10月6時間、11月4時間、12月3.5時間である。湖畔の測候所はこゝには加へてない。

風

バルグジンに於ける卓越風は西風で、南西風がこれに次ぐ。トウキンスキー・マーヤクでも同方位の風が吹き、ウスチ・イングルの卓越風は南西、ベレヴァリナヤでは北西或は西である。バルグジンの年平均風速は毎秒3.2米、月別にみると最強が5月の4.6米、最弱が12月の1.6米、トウキンスキーでは年平均2.7米、月別には10.11月は例外として他は殆んど同様で、10.11月には最大5.3米に達する。ベレヴァリナヤでは平均3.4米、月により2.1より4.2米の間を上下する。最大は4月である。

氣 壓

氣壓は次の如くである。

所 名	年 平 均	最 高 平 均	最 低 平 均
トウキンスキー・マーヤク	720	743	707

バルグジン	718	740	702
ドウシカチヤン	722	745	705

濕 度

トウキンスキー・マーヤクでは年平均相対湿度75%である。こゝで1日中最も高いのは夕刻であり、この頃の年平均は79%であり正午は最も低く(69%)、朝は77%に達する。各月別には大體規則正しく配列され、1.2月には上昇し3月は低下し始め4.5月に及ぶ。6月は5月に比し著しく増加し、朝の平均は略80%を、正午は70%を、夕刻は85%を示す。7.8.9月と大した動搖なく其後11月迄遞減し朝70%正午65%夕刻70%程度に止まる。12月には少しく高まる。バルグジンでは年平均71%で朝は夕より高く、夕は晝より高い。こゝの最低湿度は大體5月で朝の平均65%、正午40%、夕刻55%である。この地方では後半年の湿度は前半年のそれよりも大きい。ドウシカチヤンの相対湿度の年平均は78%で朝は夕刻より高く夕刻は正午より高い。この現象は各月共看取される。各月共朝は可なり同量で通常80乃至85%であり、正午は60乃至75%夕は朝と殆んど同様である。他の測候所は前記の各所より湿度は稍々少い。但し1日3回及各月の状況は前記と同様であり最も乾燥するは5月及それ以降の温暖時期である。

第六章 アギンスキー盟の氣候

この旗の氣候要素は次の本盟内及旗境界に近い諸測候所に於ける観測によつて知るを得。

所 名	北 緯	東 經	標 高	観 測 年 數
アギンスコエ	52°56'	114°32'	691米	11
アクシヤ	50°15'	113°25'	—	17
ボルジヤ	50°24'	116°29'	683	18

ズガルイ	51°28'	115°04'	715	3
チンダント	53°35'	115°26'	528	6
オロヅヤンナヤ	53°56'	115°36'	538	16
ウソダ	51°22'	116°19'	835	12

本旗の月平均気温は次の如くである。

所名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
アクシヤ	-23.1	-18.1	-9.4	1.6	10.0	17.6	20.3	17.0	9.6	-0.5	-11.8	-20.6	-0.6
アギンスコエ	-24.1	-19.6	-12.4	0.2	9.0	16.3	19.1	15.7	8.3	-1.2	-13.2	-21.9	-2.1
ズガルイ	-24.7	-18.1	-14.4	0.9	8.4	16.0	19.1	17.5	8.7	0.0	-11.7	-22.2	-1.8
オロヅヤンナヤ	-27.2	-23.0	-13.1	0.7	10.0	17.5	20.4	17.1	9.4	-0.9	-14.0	-24.3	-2.3
ボルジヤ	-28.5	-24.2	-14.4	0.2	9.3	17.3	20.3	17.3	9.6	-1.4	-15.1	-25.7	-3.0

アギンスキー旗の気温の變化は既述の諸旗と大差がない。本旗に於ても年平均気温は東部が西部より低い。緯度に於て二度にわたる位地の差も何等の影響を及ぼさぬ。各測候所に於ける各月気温降昇の振副は次の如く、1月が-23.1°から-28.5°迄で東に向ふに従つて低下を示す。2月は-18.1°より-24.2°迄で同じく西より東に向ふに従つて低下する。3月は-9.4°より-14.4°迄で方向に依る變化同様。4月は1.6°より0.2°迄で依然西高東低。5月は10°より8.4°迄で西高東低。6月16°より17°迄で各地共ほぼ等温。8月は16°至17.5°の範囲で各所共差違少く、9月は8.3°より9.6°の間で特に規則性は示さない。10月は-0.5乃至-1.4°の間でこの月より西高東低の気温の規則性が始る。四季別及植物長生期の気温は次の如くである。

所名	冬	春	夏	秋	植物長生期
アクシヤ	-20.6	0.7	18.1	-0.9	15.0
アギンスコエ	-21.9	-1.0	17.0	-2.0	13.7
ズガルイ	-21.7	-1.7	17.5	-1.0	13.9
オロヅヤンナヤ	-24.8	-0.8	18.0	-1.8	14.9

ボルジヤ	-28.1	-1.6	18.3	-2.3	14.8
------	-------	------	------	------	------

冬のアギンスキー盟は寒冷であり、各測候所の気温平均は-20.6°乃至-26°1'の間にあり、西高東低の傾向を示す。ボルジヤ及ホルンスキー兩旗の冬の平均気温は同等である。春は平均0.7°乃至-1.7°である。この時期も西高東低の状態を示す。夏の気温高低範囲は17°より18.5°の間であり、秋は-0.9°より-2.3°の間で東部各所が著しく低い。植物長生期の平均気温は各所共14.5°程度であり、バイカル西の諸旗は平均2°の割で低温を示す。夏の暑氣は35°に達する事があり、多く6月に現れ、各所共最寒は1月で-45°にも達する。かくの如く最暑最寒日間に80°の較差を示し、著しい大陸的気温を特長とする。

降水量

本旗の年平均降水量はそれぞれの測候所に従つて235耗より335耗の間を示す。その量は月により西より東へと減少する。1.2.3月は全く雨に乏しく、この月には平均西部で2.3耗迄東部では1耗に迄減ずる。雨の少ない月は4月10月11月12月で、4月10月の平均は10耗11月12月は5耗程度である。5.6.7.8月即ち植物長生期は最も多量を示す。5月より7月迄は増加し以後漸減する。月別各測候所の平均降水量は次の如くである。

1月	自 1.7 至 3.2	5月	自 13.0 至 20.6	9月	自 24.0 至 47.0
2月	” 1.0 ” 2.1	6月	” 30.0 ” 45.0	10月	” 3.0 ” 10.0
3月	” 1.2 ” 2.3	7月	” 75.0 ” 100.0	11月	” 2.0 ” 5.0
4月	” 3.6 ” 14.1	8月	” 72.0 ” 95.0	12月	” 1.3 ” 4.0
		年平均			年 235 乃至 335

又四季別降水量及其の%は次の如くである。

所名	冬		春		夏		秋		年
	降水量	%	降水量	%	降水量	%	降水量	%	
アクシヤ	6	2	46	14	240	68	61	71	350

アギンスコエ	6	2	22	7	218	72	59	19	305
ズガルウイ	5	2	27	9	213	71	56	18	301
オロヴヤンナヤ	4	2	21	7	204	76	41	15	266
ホルジヤ	6	2	20	9	179	76	30	13	235

冬は各測候所共降水量の2%、春は7%乃至14%、夏は最大量を示し73%、秋は13乃至19%を示す。かくの如くブリヤート・モンゴリヤ共和国はその降水量に於て夏期最大降水量を示す特色を有する。

月別降水日數

所名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
アクシヤ	2	3	2	3	5	8	10	10	6	4	2	3	58
アギンスコエ	4	3	3	4	4	8	12	12	4	4	5	3	70
ズカルウイ	2	1	2	2	4	7	18	11	13	5	5	9	79
オロヴヤンナヤ	1	1	2	3	6	8	12	13	8	4	2	3	63
ホルジヤ	3	2	1	3	5	8	11	12	7	2	3	3	60

本旗は降水日の少い事に於て前述各旗と異なる。

積雪量

本旗の積雪量は10月末に於て3糎、11月に7糎となり以後減少するが、冬期間3糎を越へざる程度で、4月末に消へ去る。オロヴヤンナヤでは大體2糎を出でず、12月中旬に初まり3月には全く消へる。ボルジヤでは4乃至8糎で、その積雪期間はオロヴヤンナヤと同様である。

雲量

本旗の年雲量は全く少い(33乃至43%)。月別雲量は規則正しく1月から7月迄漸増し、以後12月迄漸減する。1月には各所共21乃至27の雲量であり、2月も同様3月は29乃至35、4月は38乃至45、5月は47乃至54、6月44乃至60、7月55乃至62、8月は60平均、9月は45乃至52、10月は33乃至38、11月は32乃至46、12月は

28乃至33である。各期別雲量は次の如くである。

所名	冬	春	夏	秋
アクシヤ	27	39	51	39
アギンスコエ	29	39	57	42
ズガルウイ	25	41	62	44
オロヴヤンナヤ	24	43	57	39
ホルジヤ	26	40	56	38

最も雲量の多いのは夏で平均56%、次は秋の同41、春は40、冬は同27%である。

日照

1晝夜の年平均日照時は約6.5時間で、月別には1月の4、2月の5、3月の7、4月7.5、5月の8、6月8.5、7月の8、8月の8、9月の6、10月の6、11月の4.5、12月の4時間となつて居る。

風

卓越風は北西風であり北風及西風も吹く。年風速平均は毎秒3米である。月別にみれば最大風速月は5月で平均4.5米、最小は1月と12月の0.8米である。

濕度

年平均相對濕度は69%、朝の平均は77%、正午は58%、午後は71%である。

氣壓

年平均氣壓はアクシヤで696、年平均最大は716、最小は681、オロヴヤンナヤでは709、最大730、最小690である。

ブリヤ・チア内水域の結氷及解氷期は次の如くである。

水域名	位置	平均解氷期	平均結氷期	非結氷日數
ア ン ガ ラ	イルクツク 附近	4月 9日	1月12日	278
ア ン ガ ラ	ウソリエ 附近	4月28日	12月23日	246
上ア ン ガ ラ	トウシカチヤン 附近	5月20日	10月22日	155
バルグジン	バルグジン市 附近	4月27日	10月29日	186
ボルジヤ	チンダント 附近	4月28日	11月 5日	188
ジ ー ダ	ツアキルスキー村 附近	5月 3日	11月 2日	171
ドウシカチヤン	トウシカチヤン村 附近	5月17日	10月17日	150
イルクート	タラ村 附近	5月 1日	11月 4日	187
セレンガ	ウスチ・キヤフタ 附近	4月21日	11月12日	206
セレンガ	セレギンスク市 附近	4月25日	11月18日	258
セレンガ	ウホルフネ・ウヂンスク 附近	4月26日	11月 8日	196
ウ ー ダ	”	4月30日	11月 4日	188
バイカル湖	ゴコウストウン 附近	5月 7日	1月13日	251

露文翻譯 **ソ聯極東及外蒙調査資料既近刊目録**

- 第1編 ソ聯極東地方要覽 菊判 262頁
- 第2編 ソ聯極東の運輸交通問題 同 238頁
- 第3編 モスコウ—イルクツク航空路の氣象 同 181頁
- 第4編 南ザバイカルの地形と土壤(上卷) 同 341頁
- 第4編 南ザバイカルの地形と土壤(下卷) 同 247頁
- 第5編 シベリア經濟地理(上卷) 同 265頁
- 第5編 シベリア經濟地理(下卷) 同 296頁
- 第6編 蘇城・オリガ聯合企業 同 322頁
- 第7編 ソ聯極東地方の自然地理及礦物資源に関する新資料 同 311頁
- 第8編 東部シベリアの自然地理及礦物資源に関する新資料 同 218頁
- 第9編 ソ聯極東及東部シベリアの自然資源と其利用に関する新資料(上卷) 同 207頁
- 第9編 ソ聯極東及東部シベリアの自然資源と其利用に関する新資料(下卷) 同 282頁
- 第10編 ビロビヂヤン(猶太人自治州)要覽 同 120頁
- 第11編 ブリヤート蒙古自治共和國現勢 同 303頁
- 第12編 外蒙調査資料 第1輯 同 202頁
- 第12編 外蒙調査資料 第2輯 同 184頁
- 第13編 ソ聯極東地方人種誌 同 250頁
- 第14編 永久凍土層の研究 同 111頁
- 第15編 東部シベリア地方經濟要覽 同 353頁
- 第16編 外蒙古の食肉資源 同 99頁

第17編	東部シベリア地方の有色金屬鑛床	菊判	151頁
第18編	外蒙古地誌(上卷)	同	264頁
第18編	外蒙古地誌(下卷)	同	172頁
第19編	新疆よりゴビ沙漠を横ぎる	同	114頁
第20編	シベリアの炭田	同	258頁
第21編	北地航空路の研究(上卷)	同	219頁
第21編	北地航空路の研究(下卷)	同	264頁
第22編	ソ聯極東の森林	同	423頁
第23編	西部蒙古族及び滿洲族(上卷)	同	341頁
第23編	西部蒙古族及び滿洲族(下卷)	同	260頁
第24編	アムグン・ブレヤ ウダ・セレムジヤ 四河河孟調査資料 第1輯	同	146頁
第24編	アムグン・ブレヤ ウダ・セレムジヤ 四河河孟調査資料 第2輯	同	206頁
第24編	アムグン・ブレヤ ウダ・セレムジヤ 四河河孟調査資料 第3輯	同	148頁
第24編	アムグン・ブレヤ ウダ・セレムジヤ 四河河孟調査資料 第4輯	同	140頁
第24編	アムグン・ブレヤ ウダ・セレムジヤ 四河河孟調査資料 第5輯	同	128頁
第25編	アムール・ヤクーツク 幹線道路の氷上滲出水	同	250頁
第25編附録	1927-28年冬季に於ける アムール・ヤクーツク幹線道路の氷上滲出水圖面集	四六倍判	36頁
第26編	全蘇聯鐵道輸送統計	菊判	167頁
第27編	ソ聯極東の水産及畜産	同	267頁
第28編	カザクスタン諸州概観	同	119頁
第29編	南部 ヤクーツク部 氣候・地形・土壤・植物誌	同	246頁
第30編	全ソ聯鐵道貨動統計	同	222頁
第31編	東部シベリア地方自然地理概観	同	270頁
第32編	ソ聯極東地域に於ける新建築材料	同	116頁

第33編	ソ聯極東の産金地(上卷)	菊判	287頁
第33編	ソ聯極東の産金地(下卷)	同	322頁
第34編	ソ領亞細亞動力資源調査書 第1輯	同	336頁
第34編	ソ領亞細亞動力資源調査書 第2輯	同	288頁
第34編	ソ領亞細亞動力資源調査書 第3輯	同	235頁
第34編	ソ領亞細亞動力資源調査書 第4輯	同	200頁
第34編	ソ領亞細亞動力資源調査書 第5輯	同	324頁
第35編	東部シベリアの人口問題	同	110頁
第36編	カムチャツカ州要覽	同	241頁
第37編	蘇領北地事情	同	243頁
第38編	ヤクーツ自治共和國現勢	同	252頁
第39編	ヤクーチヤに於ける氣象觀測資料	四六倍判	132頁
第40編	西部シベリア地方要覽	菊判	326頁
第41編	西部蒙古及烏梁海地方の自然地理概観(上卷)	同	358頁
第41編	西部蒙古及烏梁海地方の自然地理概観(下卷)	同	413頁
第42編	新疆經濟要覽	同	92頁
第43編	アムール州誌	同	744頁
第44編	沿海・アムール地方誌	同	230頁
第45編	東部シベリア地方の氣候	同	282頁

目次

1	序	(著者) 山岸守永	1
2	第一章	(著者) 山岸守永	2
3	第二章	(著者) 山岸守永	3
4	第三章	(著者) 山岸守永	4
5	第四章	(著者) 山岸守永	5
6	第五章	(著者) 山岸守永	6
7	第六章	(著者) 山岸守永	7
8	第七章	(著者) 山岸守永	8
9	第八章	(著者) 山岸守永	9
10	第九章	(著者) 山岸守永	10
11	第十章	(著者) 山岸守永	11
12	第十一章	(著者) 山岸守永	12
13	第十二章	(著者) 山岸守永	13
14	第十三章	(著者) 山岸守永	14
15	第十四章	(著者) 山岸守永	15
16	第十五章	(著者) 山岸守永	16
17	第十六章	(著者) 山岸守永	17
18	第十七章	(著者) 山岸守永	18
19	第十八章	(著者) 山岸守永	19
20	第十九章	(著者) 山岸守永	20
21	第二十章	(著者) 山岸守永	21
22	第二十一章	(著者) 山岸守永	22
23	第二十二章	(著者) 山岸守永	23
24	第二十三章	(著者) 山岸守永	24
25	第二十四章	(著者) 山岸守永	25
26	第二十五章	(著者) 山岸守永	26
27	第二十六章	(著者) 山岸守永	27
28	第二十七章	(著者) 山岸守永	28
29	第二十八章	(著者) 山岸守永	29
30	第二十九章	(著者) 山岸守永	30
31	第三十章	(著者) 山岸守永	31
32	第三十一章	(著者) 山岸守永	32
33	第三十二章	(著者) 山岸守永	33
34	第三十三章	(著者) 山岸守永	34
35	第三十四章	(著者) 山岸守永	35
36	第三十五章	(著者) 山岸守永	36
37	第三十六章	(著者) 山岸守永	37
38	第三十七章	(著者) 山岸守永	38
39	第三十八章	(著者) 山岸守永	39
40	第三十九章	(著者) 山岸守永	40
41	第四十章	(著者) 山岸守永	41
42	第四十一章	(著者) 山岸守永	42
43	第四十二章	(著者) 山岸守永	43
44	第四十三章	(著者) 山岸守永	44
45	第四十四章	(著者) 山岸守永	45
46	第四十五章	(著者) 山岸守永	46
47	第四十六章	(著者) 山岸守永	47
48	第四十七章	(著者) 山岸守永	48
49	第四十八章	(著者) 山岸守永	49
50	第四十九章	(著者) 山岸守永	50
51	第五十章	(著者) 山岸守永	51
52	第五十一章	(著者) 山岸守永	52
53	第五十二章	(著者) 山岸守永	53
54	第五十三章	(著者) 山岸守永	54
55	第五十四章	(著者) 山岸守永	55
56	第五十五章	(著者) 山岸守永	56
57	第五十六章	(著者) 山岸守永	57
58	第五十七章	(著者) 山岸守永	58
59	第五十八章	(著者) 山岸守永	59
60	第五十九章	(著者) 山岸守永	60
61	第六十章	(著者) 山岸守永	61
62	第六十一章	(著者) 山岸守永	62
63	第六十二章	(著者) 山岸守永	63
64	第六十三章	(著者) 山岸守永	64
65	第六十四章	(著者) 山岸守永	65
66	第六十五章	(著者) 山岸守永	66
67	第六十六章	(著者) 山岸守永	67
68	第六十七章	(著者) 山岸守永	68
69	第六十八章	(著者) 山岸守永	69
70	第六十九章	(著者) 山岸守永	70
71	第七十章	(著者) 山岸守永	71
72	第七十一章	(著者) 山岸守永	72
73	第七十二章	(著者) 山岸守永	73
74	第七十三章	(著者) 山岸守永	74
75	第七十四章	(著者) 山岸守永	75
76	第七十五章	(著者) 山岸守永	76
77	第七十六章	(著者) 山岸守永	77
78	第七十七章	(著者) 山岸守永	78
79	第七十八章	(著者) 山岸守永	79
80	第七十九章	(著者) 山岸守永	80
81	第八十章	(著者) 山岸守永	81
82	第八十一章	(著者) 山岸守永	82
83	第八十二章	(著者) 山岸守永	83
84	第八十三章	(著者) 山岸守永	84
85	第八十四章	(著者) 山岸守永	85
86	第八十五章	(著者) 山岸守永	86
87	第八十六章	(著者) 山岸守永	87
88	第八十七章	(著者) 山岸守永	88
89	第八十八章	(著者) 山岸守永	89
90	第八十九章	(著者) 山岸守永	90
91	第九十章	(著者) 山岸守永	91
92	第九十一章	(著者) 山岸守永	92
93	第九十二章	(著者) 山岸守永	93
94	第九十三章	(著者) 山岸守永	94
95	第九十四章	(著者) 山岸守永	95
96	第九十五章	(著者) 山岸守永	96
97	第九十六章	(著者) 山岸守永	97
98	第九十七章	(著者) 山岸守永	98
99	第九十八章	(著者) 山岸守永	99
100	第九十九章	(著者) 山岸守永	100
101	第一百章	(著者) 山岸守永	101

昭和十三年九月廿五日印刷
 昭和十三年九月三十日發行

翻譯文
 ソ聯極東及外蒙調查資料 第四十五編

東部シベリヤ地方の氣候

大連市桃源路八六番地
 發行人 兼 山 岸 守 永

大連市近江町九一番地
 印刷人 山 田 浩 通

大連市近江町九一番地
 印刷所 東亞印刷株式會社

大連市東公園町三〇番地
 發行所 南滿洲鐵道株式會社

14.5
563

14. 5-563



1200501217769

114.5

63

終